ライオン誌3月号 2007年（平成19年）2月20日発行
昭和33年12月19日付第3種郵便物認可
毎月1回20日発行第49巻第9号

IN JAPAN
Official publication
of Lions Clubs
International

March 2007

3

THEME 青少年Ⅱ
PICK UP 高次脳機能障害
ROAR 332複合地区

第49巻第9号

We Serve

CONTENTS

ライオンズクラブ国際協会公式機関誌『ライオン』誌日本語版ウェブ・マガジン

https://www.thelion-mag.jp/

『ライオン』誌日本語版では現在、新鮮な情報を迅速に発信すると共に、豊富な資料をいつでも手軽に利用して頂けるよう、ウェブマガジン（https://www.thelion-mag.jp/）を公開している。主要コンテンツは「ニュース」「トピックス」「イベント」「ライオンズ情報資料」「ライオン誌日本語版」で、本誌とは別のオリジナル企画も用意している。更に、「ライオン誌出版物オンライン・ショップ」「ライオン誌フォト・ライブラリー」「各種書式／ロゴ　ダウンロード」「国際協会公式サイトお役立ちナビ」「Web伝言板」なども設置しているので、ぜひご活用頂きたい。

『ライオン』誌日本語版ウェブマガジン・ハイライト

キャビネット訪問（「トピックス」内：https://www.thelion-mag.jp/modules/tinyd2/index.php?id=1）

全国33の準地区キャビネット事務局を順次訪問。地区ガバナーから地区運営についてお話を伺うと共に、事務局を支えるスタッフの皆さんをご紹介していく。

- 337-D地区（熊本県・鹿児島県・沖縄県）　最南端、沖縄のキャビネット事務局からのリポート
- 336-C地区（広島県）　12月8日、広島の中心街にある事務局を訪問
- 335-B地区（大阪府・和歌山県）　12月7日、引っ越しを終えたばかりの事務局を訪問
- 334-B地区（岐阜県・三重県）　12月5日、静かで穏やかな町の事務局の様子をリポート
- 332-F地区（秋田県）　11月30日、ガバナーのホストクラブによる手作り事務局を訪問
- 332-B地区（岩手県）　11月29日、南部杜氏の里石鳥谷の連絡事務所と県都盛岡の事務局
- 334-D地区（富山県・石川県・福井県）　11月22日、万葉のまち高岡にある事務局を訪問
- 335-A地区（兵庫県東部）　11月16日、リニューアルしたての明るい事務局を訪ねて
- 335-C地区（滋賀県・京都府・奈良県）　10月25日、古都・京都のキャビネット事務局を訪問
- 335-D地区（兵庫県西部）　10月24日、国宝・姫路城にほど近いキャビネット事務局を訪問
- 336-B地区（鳥取県・岡山県）　10月24日、岡山商工会議所内のキャビネット事務局を訪問
- 334-C地区（静岡県）　10月19日、固定化して22年のキャビネット事務局を訪問
- 331-B地区（北海道:道北・道東）　日本最北端のキャビネットの模様をリポート
- 333-D地区（群馬県）　9月26日、地区分割後2年の新しいキャビネット事務局を訪問
- 332-D地区（福島県）　9月21日、県の中央・郡山に置かれたキャビネット事務局を訪問
- 332-C地区（宮城県）　9月20日、仙台市役所の裏手にあるキャビネット事務局を訪問
- 330-A地区（東京都）　9月11日、大都会・新宿に居を構えるキャビネット事務局を訪問
- 333-C地区（千葉県）　8月25日、26年前に固定された千葉市の事務局を訪問
- 330-C地区（埼玉県）　8月23日、今年度のために新築されたキャビネット事務局を訪問
- 332-A地区（青森県）　8月17日、八戸市にあるキャビネット事務局を訪問
- 336-A地区（四国4県）　8月8日、愛媛県八幡浜市にあるキャビネット事務局を訪問
- 334-A地区（愛知県）　7月25日、名古屋駅近くにあるキャビネット事務局を訪問
- 331-A地区（北海道:道央）　7月21日、札幌駅北口にあるキャビネット事務局を訪問
- 330-B地区（神奈川県）　6月2日、横浜市にあるキャビネット事務局を訪問

国際会長メッセージ

女性を受け入れた経験に改革の価値を学ぼう

2006-07年度国際会長
ジミー・M・ロス

20年前、ライオンズクラブはある改革を成し遂げました。

長い間、男性に限られていたクラブへの入会が、女性にも認められることになったのです。当初加わったのは、少数の勇敢な女性だけでしたが、その数は次第に増加していきました。現在では女性が全会員の17.5%を占め、50%近くに達している地区もある程です。

中には、男性の領域が侵されたことに不安を感じる会員もいました。女性は自分たちと同じ会員意識や満足感を持つことが出来るだろうかと、疑念を抱く会員もいました。

急激な変化が生じた場合にはよくあることですが、物事は思いがけない方向に進むものです。女性たちは、ライオンズクラブに計り知れないほどの利益をもたらしました。

クラブと地区は新たな人材や能力を確保し、解散を免れたクラブもあれば、活力を取り戻したクラブもあります。女性が存在したからこそ、ライオンズは現在のような社会的影響力を持つことが出来たのです。

女性に入会を認めた経験は、私たちに変化を受け入れることの価値を学ばせました。改革には不安が伴うものです。過去の習慣に従うことは簡単ですが、それは必ずしも最善の方法であるとは限りません。

私は国際会長として、皆さんに「パラダイム・シフト」の実現を奨励しています。私たちは通常の、あるいは型通りの行動方針にこだわることなく、最善の方法を追求すべきです。

改革のみを目的として、クラブの主要な資金獲得方法や会員招請方法を変える必要はないでしょう。しかし、クラブや地域社会に特有の環境を考慮し、従来の方法がそれぞれの状況に最適であるかを分析すべきです。クラブによっては変化を必要とせず、あるいは小さな改革だけで十分な場合もあるでしょう。しかし、大きな改革を成し遂げることで、空前の繁栄を実現するクラブもあるはずです。

好むと好まざるとにかかわらず、人生とは転変するものです。人々や組織の成功にとって、適応力と柔軟性は不可欠です。

ライオンズクラブの創立者であるメルビン・ジョーンズは、多くの奉仕クラブが個人的な利益を追求していた時代に、新しいクラブの目的は奉仕のみにあると主張しました。彼はその時、偉大なるパラダイム・シフトを成し遂げたのです。私たちはその精神に基づき、積極的に変化を受け入れなければなりません。それは自らの運命を切り開くことにつながります。

THEME 青少年Ⅱ

おやじ！ 本気で行こう！ 子どもは大人から目を離さない！

広島県のライオンズによるラジオを活用した青少年育成活動

「子どもっていうのは目を離さないんです。大人と目で話をする。目で追うから、目を見て、必ず笑顔でオウム返しをすると、子どもはすごく安定しますね」

ある朝の中国放送ラジオからのメッセージである。子育ての上でとても大事な一言が、さりげなく話される。

毎週金曜日、朝7時40分からの10分間。この局の寺内優アナウンサーがパーソナリティーを務める「おはようラジオ」の1コーナーだ。広島県内の82のライオンズクラブが、このコーナーを広島県と共に提供して、県の青少年育成活動を支えた。メディアを活用して、ライオンズの活動を広く知ってもらおうという活動でもある。

ラジオ放送のあらましと一緒に、活動の様子を報告する。

長男が集団暴行を受けた父がおやじの会を立ち上げた

中学生だった長男が集団暴行を受けたと聞いた広島県廿日市市の野村

洋一さんは、直ちに立ち上がった。学校とかかわりを持つ中で、おやじの会を立ち上げたのだ。2000年のことだった。

　当時、長男の通う野坂中学校は、言葉で言い表せない程に荒れていた。トイレのドアが壊されて1枚も無い。女子生徒は、昼休みに慌てて家に帰り、用を済ませてくるという状態だった。

　初め、野村さんたちは、子どもたちを前にして構えた。

「最初はなめられたらいけないと思って、高圧的な物言いをしました。だけど、それをしたら拒絶されます。構えるから、それが相手に影響するんです。だから軽いタッチで話していくというのが一番いい」。そう気がついた。

　やがて、おやじの会は、草刈り奉仕を始め、校内の修理にも乗り出す。校長がポケットマネーで材料を調えた。全校生徒が見守る中で、おやじの会の職人の父親たちは、黙々とトイレのドアを修理していく。すべてのドアが元通りになった。直ったドアを壊そうという者は現れなかった。

　野村さんは言う。「暴走族の子どもたちがね、自分たちに本気で向き合ってるのは、警察官であるとか、裁判所の方とか、私たちみたいなボランティア、これ以外にないって言うんですよ。本気で怒ってくれるのがね」

「今、周りの大人たちにこういうところが必要なんだっていう点、どうお考えですか」と聞かれた野村さんが答える。

「親が子どもに媚びる状態が多いと思います。いちばん多いのが、自由とエゴの混同ですね。それを履き違えて、自分の好き放題するみたいな風潮が強いと思います。ですから、地域であれ、親であれ、学校であれ、みんなが悪いことは悪いと、相手が聞かなくてもいいから言い続ける。それで、良いことをした時にはどんどん褒める、ということが必要だと思います。大人と子どもというよりは、人間として、人間対人間という観点で行けばいいと思います」

　子どもたちと真剣に向き合って行動してきた体験が言わせる信念のコトバだった。

「おやじの会」代表の野村さんのこの体験談は、2004年5月21日に放送され、多くの反響が寄せられた。

　2003年の年末のことだった。広島鯉城ライオンズクラブのライオン水中誠三のところへ、広島県青少年室長から1本の電話が入った。県がやろうとしている青少年支援活動に協力してもらえないか、というものであった。

かねてから交流のあった室長からの連絡とあって、ライオン水中は詳細を尋ねた。室長の話は具体的には、ライオンズクラブの協力によって一つの事業を立ち上げたいという内容であった。

青少年の健全育成にかかわる悩みや疑問を洗い出して、この問題と取り組んでいる人々の経験談やアドバイスを、ラジオを活用して広く知らせ、青少年健全育成活動についての関心を呼び起こして、地域での活動などに積極的に参加してもらおうと考えていると言う。放送は、中国放送ラジオを利用し、毎週10分間、年間52回の放送を予定していた。

予算を試算したところ、600万円掛かるという。そのうち、県（社団法人青少年育成広島県民会議）が300万円を負担し、残る300万円についてライオンズの協力を得られないか、というのが依頼の主旨であった。しかし、クラブにしてみれば、他の活動のこともあり、単一クラブで取り組むには荷が重過ぎた。課題はリジョンに図られることになった。

ライオンズ草創時から始まる ラジオ活用による広報活動

ライオンズクラブにとって、ラジオという電波メディアを使った広報活動は草創期までさかのぼれるくらい古い。

日本で最初のライオンズクラブが東京で誕生した1952年の3月、開局間もない日本文化放送から、東京ライオンズクラブのライオン石川欣一による「書斎から」という番組が放送された。20分間のこの放送で、初めて日本にライオンズクラブという国際的な組織が誕生したことが告げられた。

「今日はうれしいニュースをお話ししましょう。（略）他でもない、国際ライオンズクラブ――ライオンは『百獣の王』といわれる獅子ですが、その名を取ったクラブの支部が東京に出来たお話です」

ライオン石川はこのように前置きして東京に世界で9218番目のクラブが誕生したこと、またそれが戦争の惨禍を超えた国際的な友愛の結果生まれたいきさつを述べた。ラジオ単独の報道だった。

後に日本初の地区ガバナー、国際理事に就任したライオン石川の「書斎から」と題した週1回のラジオ15分番組は、その後、20局にネットを増やし、59年5月まで続いた。ライオニズムを踏まえたライオン石川の放送は、その時々のライオンズの考えを広く知ってもらうのに役立てられた。ライオンズの広報活動は、初めからラジオという電波媒体と共にあったと言っていい。

ライオン水中の提案を協議した336-C地区の第5、6、7リジョン（広島市内）では、県から提案された青少年健全育成活動を3リジョン内クラブの合同事業とすることを快諾した。こうして、「おやじ!本気で行こう!」という名のラジオ3分番組が、2004年4月2日から始まる。

金曜の概ね午前7時40分からのこの番組は、中国放送の寺内優アナをパーソナリティーとしたワイド番組の1コーナー。ゲスト出演者がアナのインタビューに答える形を取り、話の正味時間は約3分しかなかったが、毎回の出演者の体験からにじみ出た話は、誠に中味の濃いものであった。

第1回の放送は、青少年育成広島県民会議議長で茶道家元でもある上田宗嗣さん、2回目からは、広島県内の実にさまざまなグループの人々

が登場した。NPO法人であったりなかったり、個人で活動している人だったり、ボランティアグループのメンバーだったりしたが、子どもたちを思う広島県民の願いを一つひとつ具体的な形にしたような多彩さに溢れていた。

「こどもネットワーク」代表、「青少年サポートクラブ」代表、「おのみち100キロ徒歩の旅」を主宰している人、プレーパークをつくる会の代表、「すこやか子育て支援センター」代表、「子ども虐待ホットライン」の代表、車内マナー向上を呼び掛けている駅長さん、絵本牧場の主宰者、自然を生かしたレクリエーション活動を行っている人、街頭であいさつ運動を続けている人、フリースクールを開いている人などなど、番組に登場する人々の顔ぶれは、広島県内には子どもたちのことを深く考え、活動している人々がこんなにもいるのだ、と感じさせる程に多彩だった。

三次ライオンズクラブの薬物乱用防止認定講師による中学校での講演会

　暴走族だったという匿名希望のゲストも登場した。中学2年くらいから夜遊びを始めて、高校生の時に暴走族になったという青年は、寺内アナの問い掛けに答えて、大人に対する思いをこう答えていた。

「身体と身体のぶつかり合いっていうのも必要だと思うんですよ。逃げ腰でただ注意するって言うんじゃなくて、向き合うことが必要だと思います。親が先生に体罰を与えたとか学校に言いに行くんじゃなくて、どんなところが悪かったのかって、先生にちゃんと聞いたりとか、もっといろんな人が連携して子どもたちを助けていくべきじゃないかな、と思います」

おやじ、教える資格があるのか 資格があるように勉強しなさい

　第18回には三次ライオンズクラブのライオン吉川光三が登場した。ライオン吉川はクラブの活動の一環として薬物乱用防止の活動を続けている。ライオン吉川は活動のあらましを述べた後、大人の自覚をも促して、話の最後を次のように結んだ。

「おやじ、子どもに教える資格があるのか。資格があるように自分で勉強しなさい」

　強烈な示唆だった。それから4カ月後には、広島若葉ライオンズクラブのライオン川堀耕平が出演して、クラブが行っている青少年健全育成事業の概要を紹介した。このクラブでは、広島県内の小中学生を「広島美術館」に無料で招待してきた。平成3年から始めたこの活動は、この時点で約3万3千人を招いている。ライオン川堀は、絵画の鑑賞が平和の心を育てると説き、子どもたちのために「大人自らが社会のルールを守るということが大事だと思う」と話を結んだ。

　さまざまな活動をしている人たちが登場した。井畝美雪さんは、青少年の立ち直りを支援しているお好み焼き屋さんだ。その店で働いていた青年が使い込みをしていた。彼は、土下座して謝った。信頼してそのまま働かせたが、再び使い込みが分かった。示しがつかない。保護司に連絡して辞めてもらった。その彼が九州の刑務所から手紙を寄越した。

「あんなに優しくしてもらったことは初めてだ。自分を信頼してもらったのがとても嬉しかった。本当に反省している。今後は恩返しだと思って真面目にやります」

　トラックからガソリンを抜き取ってバイクで走り回っている少年がいた。少年院に入ったその少年を雇った。少年院を出る時、両親がいるの

に、誰も迎えに行かないという。井畝さんが迎えに行って、店で働いてもらうことにした。その彼が、今では2児の父になって、真面目に働いている。井畝さんは言う。

「誰かがチャンスを与えれば真面目に出来る。そういうふうな気持ちでその子に声を掛けてあげることが大切だと思うんです。一番大切なのはお母さんの愛情、そして、周りの人たちへの感謝を忘れてはいけないということを子どもたちに教えることだと思います」

放送2年目に入り 反響はますます大きくなった

放送1年目は52人が出演して終わり、2年目に入ろうとしていた。子どもたちの問題に向き合うには、何が必要なのか、大人に何が問われているのか、問題のありどころが回を重ねるごとにはっきりし出していた。「おやじ!本気で行こう!」を継続するか、しないのか。ここで止めるのは入口に入って引き返すのに似ていた。

2年目は広島県内のクラブ全体で取り組もうと、当時の地区青少年育成委員長の(ライオン)森野昭市(広島ライオンズ(アクラ))が地区内全クラブに協力を呼び掛け、これに応えて8割のクラブが参加した。2年目は、放送局側も協力を惜しまず、前年度の予算の1割減の540万円で実施出来ることになった。ライオンズはその半額を受け持った。会員1人当たりでは660円の拠出になる。

地元・因島の尾道市立土生中学校で陣太鼓の指導をする(ライオン)岡村

2005年4月から始まった「おやじ!本気で行こう!」2年目の第1回放送には柔道の町道場をやっている野坂松陰さんが出演して、大人も子どもも「互いに認め合って、がんばってるね、っていうことを言わなければいけないですね」と話し、共感を呼んだ。

4回目には、因島村上水軍陣太鼓保存会代表で、因島ライオンズ(アクラ)の会員でもある(ライオン)岡村俊典が出演、子どもとのかかわりについて述べた。「地域がどうかかわれるか、我々大人は、どう応援出来るか。これが必要ですね。応援して声援する、かかわることによって日頃から声が掛け合える。そういった関係が出来ると思う」

番組は毎回、「広島県内のライオンズクラブの協力」で行っているというクレジット・アナウンスを入れて続いた。実践から生まれたさまざまな提言を残して、今3年目に入っている。3年目からはライオンズの実践を受けて、地元の広島トヨタが協力を引き受けた。

実績を重ねるうちに、出演者による交流会も重ねられ、活動のネットワークが出来た。中国放送宛に出演者への講演依頼が続き、番組の記録集も作られた。番組そのものも、平成17年度民間放送連盟賞の中国四国地方審査会で、放送活動部門の優秀賞を受賞した。

視聴率調査でも、ラジオはまだまだ、有力な宣伝媒体であることが示され、世はIT時代、ラジオなど聴かれていないだろうという大方の推測を覆す結果となった。

こうして、「おやじ!本気で行こう!」の広がりは、予想を超えるものとなって、新たな展開も期待されるようになった。

一つの決断が、県域全体に広がる活動を生み出したのだった。草創以来、ラジオと共にあったライオンズの歴史を改めて実感させる活動でもあった、と言えよう。(篠崎淳之介)

国際理事だより

■国際理事
山田實紘
（岐阜県・美濃加茂）

新年1月早々、国際本部で執行委員会と長期計画委員会が開催され、2泊4日の渡米。連日午前9時から午後6時過ぎまで長時間続いた会議は、内容の濃いものでした。

執行委員会には執行役員4人（国際会長、第1、第2副会長、直前国際会長）に私が入っています。長期計画委員会は、この5人にアポインティーのジョセフ・ロブレスキー元国際会長と元国際理事1人が加わります。二つの委員会は通常年5回、臨時委員会も開催されるので実質は年7～8回、事務総長を交えての中枢的会議です。

今回は、継続案件である国際理事の定数について話し合いました。シカゴ国際大会の代議員投票に持ち込むには3月にテキサス州サンアントニオで開催される理事会で決定しなければならず、そのたたき台を作成することが大切な仕事でした。クレメント・クジアク元国際会長の時に出されたこの案件

国際理事定数の改正案

は、いまだ結論が出ていません。アメリカの理事数が会員数に比して多すぎることは明らかです。この問題に触れないでおきたいアメリカと、会員数第2位のインドと第3位の日本、ヨーロッパの思惑が交錯する中、アショク・メータ前国際会長としては、どうしても本年度中に結論を出したいため、熱の込もった会議となりました。

結論を急ぐには理由があります。執行委員会のメンバーを見てください。5人の中で、メータ前会長（インド）、マヘンドラ・アマラスリヤ第1副会長（スリランカ）、そして私（日本）とアジア勢が過半数を占めていることは、いまだかつてなかったからです。この機を逃したらもうチャンスはありません。

私の1票がどちらに付くかによって決定するわけですから、メータ前会長は「今後、東洋・東南アジア（OSEAL）とインド・南アジア・アフリカ・中東（ISAAME）は手を組んでいかなければならない。私に賛同してください」と。また、オブザーバーとして会議に出席していたロブレスキー元会長からは「ライオンズはアメリカ発祥であるから、イニシアチブはこちらにあることを理解してほしい」と言われ、両者の板ばさみで苦しい立場に置かれました。が、執行委員である以上は全世界的立場を信条として発言を求められますので、次のように答えました。「ライオンズは民主主義的平等を基としていることを考えると、会員数比で理事を選出することは大切である。よってOSEALとISAAMEの理事数は増加させるべきであろう。しかし問題はその内容であり、インドは会員数の60％、韓国は40％が会費未払いである。会費を支払ってこそ初めて会員であるとすると、現状の人数比での計算には問題がある」と。両者の激論に水を差した形となりましたが、改めて妥協案を話し合いました。結果、OSEAL、ISAAME、ヨーロッパの各地域は1人ずつ増加、アメリカ、中南米は1人ずつ減少、アポインティーも1人減少とする案で丸く収まりました。

全世界130万人、200カ国を一つにまとめることは大変なことです。両委員会は腹の探り合いの会議であり、空恐ろしいところで仕事をしているなあと感じた次第です。

ライオンズの故郷シカゴで開かれる
2007年国際大会情報
Sweet Home CHICAGO

『ライオン』誌ウェブマガジン(www.lion-mag.jp)には、大会日程や開催地シカゴの魅力などの情報を掲載。「イベント」→「国際大会」ページをご覧ください

大会の華 インターナショナル・パレード

前号まで2回にわたり代議員投票の説明が続いたので、国際大会ってそんな堅苦しい行事？ と思われた方もいらっしゃるかもしれません。投票の重要性は十分ご理解頂いたとして、今回は楽しく華やかな催しをご紹介しましょう。世界中から集まったライオンズが繰り広げるパレードです。

パレードの最大の楽しみはコスチューム。各国が趣向を凝らしますが、だいたい民族衣装派とユニフォーム派に分かれます。民族衣装派の代表は、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、デンマークのスカンジナビア4国で、それぞれの民族衣装を身にまとい合唱しながら行進します。アフリカの国々の布使いも印象的ですし、南米や東欧、中東の国々の美しい衣装にも惚れぼれしてしまいます。一方、ユニフォーム派代表はフランスとイタリア。いずれも白のスーツにナショナル・カラー3色のスカーフをまとったエレガントな女性を、ネクタイでビシッとキメた男性がエスコートして登場します。アメリカもユニフォーム派が多く、州ごとに特色を出し、例えばアイダホ州は帽子の上にジャガイモが乗っています。ジミー・ロス国際会長の地元テキサスはもちろん、カウボーイハットにブーツ。これはむしろ民族衣装の類でしょうか？

さて我が日本はというと、シカゴ大会では女性は浴衣に蛇の目傘、男性はベストにキャップ帽と、複合地区国際大会委員長連絡会議で決まりました。例年、浴衣姿の女性は大人気で、あちこちで記念撮影をせがまれています。パレード終了後には譲ってもらった蛇の目傘を手に、満面の笑みを浮かべる他国のライオンをよく見掛けます。

国際色豊かなパレードで各国ライオンズとの交流を楽しむのも、国際大会の醍醐味です。

シカゴの魅力発見③

映画の舞台を歩く

数々の映画の舞台となっているシカゴ。それだけ絵になる街、魅力的な街だと言える。国際大会に参加する前に、映画でシカゴの街を味わってみてはどうだろう。

アル・カポネが暗躍した禁酒法時代のシカゴを描く「アンタッチャブル」に、ラストのどんでん返しが痛快な名作「スティング」。バットマンとスパイダーマンのヒーローたちの活躍も、映画ではシカゴが舞台となっている。シカゴの名所を随所に散りばめた映画が「ブルース・ブラザーズ」。ジョン・ベルーシーとダン・エイクロイドの名コンビが、お馴染みの黒いスーツにソフト帽、サングラス姿で繰り広げるミュージカル・コメディだ。他にもエディ・マーフィー主演の「大逆転」に、子役が大活躍した「ホームアローン」などなど、挙げ始めたら切りがないので、詳しくは『ライオン』誌ウェブマガジン(www.lion-mag.jp)で。

333-B地区で子どもの未来を考える食育フォーラム

333-B地区(茨城県・栃木県/幡谷浩史地区ガバナー)は1月28日、茨城県水戸市の水戸短期大学で食育フォーラムを開催した。この日は水戸市民や地区内会員ら約300人が参加、青少年に対する食育の重要性を考えた。基調講演は筑波大学医学部の和田由香講師が務め、学校における健康教育や子どもたちの精神状態について実例を挙げて説明。それらをふまえ「食卓の記憶は将来に影響する。楽しい親子の会話を持つよう心掛けてほしい」と話した。続くパネル・ディスカッションでは廣戸京子氏(茨城県生活学校連絡会顧問)、赤上晴子氏(鹿嶋市食生活改善推進連絡協議会)、藤城博氏(日本食養の会会長)、ライオン高橋啓子(前地区青少年健全育成委員長)の各パネリストが、食環境やしつけの重要性、食事の質について話し、最後にコーディネーターの幡谷ガバナーが、「今日の情報をクラブで、家庭で、職場で話し、次世代の青少年のために食育の大切さを広く伝えてほしい」と訴えた。

335複合地区で地方講師育成研究会を開催

1月18日~21日、335複合地区(髙橋祥治議長)の地方講師育成研究会が開催された。国際協会の指導力育成プログラムの下で開かれる研究会の一つで、質の高い講師の育成を目的とするもの。開催期間中の宿泊費と食事代には国際協会から補助金が出される。日本での開催は初。基本カリキュラムは4日間で組まれており、335複合地区では前半2日間を複合事務局及び自宅学習、後半2日間を大阪市・厚生年金会館での研究会とする日程で開催した。今回の研究会では、昨年4月に国際協会がタイ・パタヤで行った講師育成研究会を修了した山本孜元地区ガバナー(335-D地区)がコーディネーターを、川西建雄元地区ガバナー(335-D)、本郷公夫元キャビネット幹事(335-B)が講師を務めた。各準地区から集まった受講者20人は、パワーポイントやOHPなどの使い方、話すスピードや目線の配り方、会場のレイアウトやその準備、意見の聞き方やまとめ方など講師としての技術を学んだ。

NEWS CASSETTE

ライオンズクエスト、日本からの申請2件が承認

1月10日にアメリカ・イリノイ州オークブルックの国際本部で開催されたライオンズクエスト諮問委員会で日本からの申請2件を含む14件の四大交付金事業が承認された。日本からの申請は、331・C地区（北海道・道南／寿浅弘幸ガバナー）の導入事業に対する2万5千ドルと、335・A（兵庫県・東／其浦宏次ガバナー）、335・B（大阪府・和歌山県／岡田宏ガバナー）、335・D（兵庫県・西／小林登ガバナー）3地区の共同申請による導入事業に対する10万ドル。これにより、四大交付金を得てライオンズクエスト・プログラムを推進している日本の地区は10地区となった。

＊今月号付録「LCIF特集」に現在国内で進行中のライオンズクエスト導入事業のリポートと、今年度前半に事業に着手した地区ガバナーのインタビューを掲載している

331・C地区では既に昨年8月から事業がスタートしている331・A、B両地区による共同事業（3年間）と歩調を合わせるため、今年7月から2年間にわたる事業計画を立てており、次年度から全道でプログラム推進が展開されることになった。一方、335・A、335・B、335・Dの3地区による共同事業は承認を受けて1月からスタートし、2009年12月までの3年間の事業が計画されている。

視力ファースト諮問委員会で23件の事業が承認される

1月に国際本部で開催された視力ファースト諮問委員会で、23件、938万4千ドルのLCIF視力ファースト交付金が承認された。エチオピアやパキスタン、フィリピンにおける白内障手術キャンペーンや、モロッコ、ネパールにおける眼科医療の人材育成、ナイジェリア、インドでの眼科病院の整備、アフリカ諸国の眼科医療体制の整備などがある。このうち3件は111複合地区（ドイツ）の指定献金事業で、コンゴ共和国における視覚障害児のリハビリテーション、ケニアにおける眼科と白内障手術の訓練、同じくケニアで首都ナイロビの眼科病院付属の教育施設拡張が承認された。ドイツのライオンズが独自の視力ファースト事業を計画し、国内で募った献金で実施するもので、実質的には視力ファースト

会議録

12月 1月 主な議題だけをまとめました

複合地区ガバナー協議会議長連絡会議

第6回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議は12月25日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、①講師育成研究会、②薬物乱用防止全国大会（330、333複合提案）、③第51回（2012年）OSEALフォーラム・ビッドに関して、④第46回（07年）OSEALフォーラムへの提案事項、⑤2008～10年国際理事候補者についての確認、⑥経費請求の確認、⑦各委員会・連絡会議報告、⑧その他について協議した。

①07年3月15日～18日に韓国で開催。日本から各複合地区1～2名の参加者を推薦する旨、伏見龍国際理事から要請。

③立候補を表明した331、336、337複合地区の提出資料を配布。各ガバナー協議会で検討する。

⑧ブランデル国際第2副会長来日は2月20日～27日。

複合地区会則委員長連絡会議

臨時複合地区会則委員長連絡会議は1月24日、日本ライオンズ連絡事務所で開催され、06年12月25日付け、福井正憲国際第2副会長推進準備委員会（335・C地区設置）内田清一委員長4書簡に対する会則的見地からの見解と、国際第2副会長候補者推薦手続規則との整合性及び議長連絡会議で議案に取り上げることの正当性について協議した。

資金の支出はない。ドイツは他にも、コンゴでの眼科訓練施設と手術センター拡張をＬＣＩＦとの共同プロジェクトとして申請、承認されており、視力ファースト事業に積極的に取り組んでいる。

シカゴで第1回世界レオ会議開催

今年はアメリカ・ペンシルベニア州に初のレオクラブが結成されてから50周年に当たり、これを記念してシカゴ国際大会の中で第1回世界レオ会議が開催される。会議ではパネルディスカッション、レオクラブ50周年記念特別レセプションなどのプログラムが組まれ、世界各国のレオ・メンバーによって意見交換が行われる。会議に参加するには大会登録が必要。世界レオ会議のプログラムや詳しい情報は国際協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）の「青少年プログラム」内「レオクラブ・プログラム」のページに掲載されている。

ボストン国際大会のパレードに参加するレオ

シカゴ国際大会の普通登録締切は3月末

7月2日～6日に開かれるシカゴ国際大会の普通登録（大人１１５ドル／子ども20ドル）締切は3月31日。この期日を過ぎると後期登録（同１３０ドル／30ドル）となる。

国際大会の代議員資格証明書の用紙変更

本誌2月号5ページ「２００７年国際大会情報」で記入方法などを説明した代議員の資格証明書の用紙が、今年から変更されることになった。新しい資格証明書はＡ４サイズで、上半分が国際協会提出分、下半分が代議員（補欠代議員）控えとなっており、必要事項を記入し、署名した後に切り離してそれぞれ提出、保管する。資格証明書は各クラブに1枚ずつ送付されるので、代議員（補欠代議員）の数に応じて複写して使用する。

日本の会員数トップ10

本誌の06年12月末集計の結果、会員数トップ10クラブは以下の通り。群馬県・高崎161人／山梨県・南アルプス151人／福岡県・田川144人／長崎県・諫早センチュリアン・142人／静岡県・浜松・141人／福岡県・飯塚119人／岐阜南114人／秋田県・大曲、愛知県・江南、岡崎南、長崎県・島原112人。会員数100人を超えるクラブは20クラブあった。

日本の女性会員は約8千人

本誌集計によると、06年12月末の日本の女性会員は8056人、全体の6・8％だった。複合地区別に見ると330複合地区＝7・3％、331＝4・3％、332＝5・7％、333＝6・8％、334＝4・6％、335＝9・0％、336＝7・0％、337＝8・4％。地区別では、337‐C＝11・4％、335‐B＝11・0％、335‐A＝10・5％の3地区で10％を超えた。335‐Bは女性のみのクラブが25と多く、女性会員の78・4％がこれらに所属しているのに比べ、337‐Cは女性クラブはわずかに一つで、男女混合クラブが多い。全国の女性クラブは96クラブあり、全女性会員の30・5％が所属している。世界では女性会員は約23万人で全体の17・5％。リーダーとしての活躍も著しく、今年度の複合地区議長の30・5％は女性である。なお、国内の女性会員数は、準地区別の月末集計を本誌ウェブマガジン（www.lion-mag.jp）の「情報資料」→「会員数」に掲載している。

地区役員交代

336‐B地区（鳥取・岡山）の松本峰雄地区幹事の逝去に伴い、植田実（鳥取県・境港ライオンズ）が後任に決定した。

新結成クラブ

富山県・高岡フラワー▼結成順位／3637▼12月2日結成▼新田昭一会長▼事務局／高岡市本丸町2‐36　田上英夫様方（〒933‐0045）TEL0766‐26‐2616▼スポンサー／高岡志貴野・高岡・高岡古城・高岡南・高岡中央

静岡県・磐田シニア▼結成順位／3638▼1月11日結成▼鈴木啓文会長▼事務局／磐田市中泉281‐1　磐田商工会館内（〒438‐0078）TEL0538‐32‐6994▼スポンサー／磐田

訃報

谷川榮一（鹿児島）

2月6日死去、91歳。59年入会。69年度302‐W7地区ガバナー。83～85年国際理事。谷川元国際理事は長年にわたり国際大会の資格審査委員を務め、その功績を称えて2001年のホノルル国際大会で特別表彰を受けた。また、国際協会の最高の栄誉である国際親善大使賞を受賞している。

原田慈教（宮崎フェニックス）
12月16日死去、83歳。63年入会。82年度337‐B地区ガバナー。

堀内泉（長野県・上田城南）
1月9日死去、92歳。76年入会。85年度334‐E地区ガバナー。

成田幸一（福島県・郡山中央）
1月10日死去、83歳。61年入会。82年度332‐D地区ガバナー。

渡辺福之助（滋賀県・八日市）
1月17日死去、85歳。63年入会。85年度335‐C地区ガバナー。

石﨑隆雄（兵庫県・神戸須磨）
1月24日死去、86歳。63年入会。86年度335‐A地区ガバナー。

日本ライオンズクラブ クラブ数・会員数

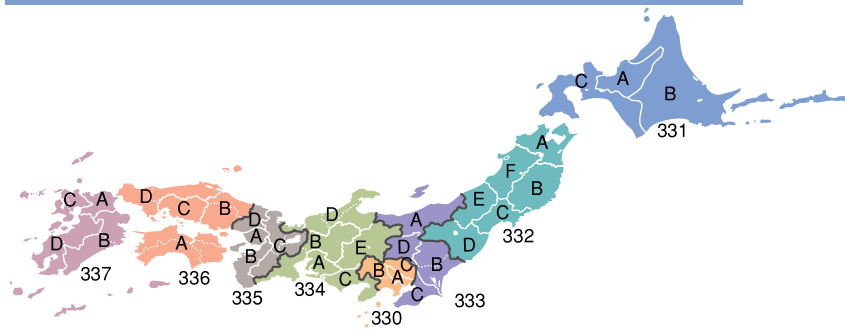
世界のライオンズ

2006.11.30.国際協会集計

	■クラブ数	■会員数	期首からの増減
ライオンズ国または領域　200	45,053	1,300,537	-958

日本のライオンズ

2006.12.31. 各キャビネット事務局集計

		■クラブ数	期首からの増減	■会員数	期首からの増減
330-A	東京	207	0	5,530	31
330-B	神奈川・山梨・東京	193	2	5,755	61
330-C	埼玉	105	-1	2,933	14
330	計	505	1	14,218	106
331-A	北海道（道央）	77	0	2,820	-15
331-B	北海道（道北・道東）	97	-1	3,031	-32
331-C	北海道（道南）	62	0	2,137	-20
331	計	236	-1	7,988	-67
332-A	青森	69	0	2,134	14
332-B	岩手	57	0	1,852	-31
332-C	宮城	82	0	1,785	-46
332-D	福島	79	0	2,278	-4
332-E	山形	56	0	2,014	5
332-F	秋田	55	-1	1,582	-15
332	計	398	-1	11,645	-77
333-A	新潟	81	2	3,034	65
333-B	茨城・栃木	136	-1	4,316	-7
333-C	千葉	129	1	3,575	-8
333-D	群馬	56	0	2,164	-23
333	計	402	2	13,089	27
334-A	愛知	118	0	5,986	21
334-B	岐阜・三重	87	-1	4,129	28
334-C	静岡	83	0	3,578	32
334-D	富山・石川・福井	99	1	4,413	59
334-E	長野	55	0	2,404	35
334	計	442	0	20,510	175
335-A	兵庫（東）	110	0	3,031	-19
335-B	大阪・和歌山	203	0	7,194	-14
335-C	滋賀・京都・奈良	123	0	4,738	-4
335-D	兵庫（西）	69	-1	2,413	-23
335	計	505	-1	17,376	-60
336-A	徳島・高知・香川・愛媛	155	-1	6,535	35
336-B	鳥取・岡山	102	0	3,886	-19
336-C	広島	106	0	4,181	55
336-D	島根・山口	109	0	3,813	-38
336	計	472	-1	18,415	33
337-A	福岡・長崎	120	1	5,053	23
337-B	大分・宮崎	89	-1	2,954	15
337-C	佐賀・長崎	84	0	3,340	4
337-D	熊本・鹿児島・沖縄	145	0	4,679	16
337	計	438	0	16,026	58
総計		3,398	-1	119,267	195
世界のライオンズの		7.5%		9.2%	

フィリピンにシングルマザーのためのデイケアセンター建設

東京新橋ライオンズクラブ

LCIF一般援助交付金：50,000ドル／事業完了日：2006年11月25日

シングルマザーの自立をサポート

フィリピン共和国の貧困地域では近年、シングルマザーが増加している。死別や別居、その他もろもろの理由から、彼女たちは女手一つで子どもを育てなければならない。働くためには安心して子どもを預けられる場所が必要だ。

フィリピン政府の児童福祉政策では、各村は最低1カ所のデイケアセンター（保育所）を設置・運営することになっている。しかし、4分の1の村にはそれがない。あったとしてもトイレもない粗末な建物や村の集会所との共用、小学校の教室や個人宅の間借りなど、十分な環境が整わないことが多い。

東京新橋ライオンズクラブは結成50周年記念事業として、特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンとの協働でフィリピンの五つの村に計8棟の保育所を建設することにした。チャイルド・ファンドは終戦後、日本の戦災孤児を支援したアメリカの民間団体が母体になっている、日本のNGOの草分け。日本での使命を終えた後、アジアやアフリカ諸国の子どもたちの健やかな成長と地域の自立を目指す活動をスタートさせた。

東京新橋ライオンズクラブは同ファンドと30周年記念事業からタッグを組んでフィリピンへの支援事業を続けている。例えばこれまでに約2630万円を投じて、里親として100人を超える子どもたちとその家族、地域を支援。加えて40周年には保育所を3棟建設した。

↑デイケアセンター引渡式

↓現地シスターたちとデイケアセンターの前で

子どもの教育に希望を託す

東京新橋ライオンズクラブのアクティビティにおける基本理念は、地球の次代を担う青少年の健全な育成のために汗を流して資金を集め、それを最も効果的に活用することである。今回の事業も母親が働くためだけでなく、幼児教育の質を向上させ、就学前に人間としての健全な発達や社会に対応する能力を身に付けさせるのも目的。それが就学後の留年や中退を減少させ、職業を選択出来る力となるのだ。八つの保育所の建設地には、チャイルド・ファンドと連携する地元支援センターがあり、きちんとした運営と教育環境の改善が進められる場所を選んだ。

村人たちは皆、保育所の完成を心待ちにしていた。工事が滞ると無償で手伝ったり、完成後は清掃や飾り付けにいそしんだり。常設の保育所がある村の子どもは就学率が高く成績も優秀だという実例を聞いている

からだ。
　現地視察に参加したライオン横山三郎は言う。「目先の支援だけでなく、10年、20年先に国を富ませるためには教育の充実しかありません。だからこそ、親たちは自分が食べるよりも子どもに教育を受けさせたいと望んでいます。子どもこそが希望であり、宝なのです」
　更に、この施設は村人たちに保健衛生教育をするためにも活用されており、村全体の生活環境の底上げにも貢献している。

LCIF Update

友と過ごす楽しい交流で資金協力

ローマ帝国第2の都市エフェソでメンバーと記念写真を撮るメータLCIF理事長夫妻

　ピサの斜塔の頂上を目指して登り、ローマでコロッセオの中を歩き、ポンペイで遺跡を横切り、アテネ・アクロポリスの丘にあるパルテノン神殿から古代オリンピック競技場を見下ろす……。2006年11月、LCIF理事長と行くLCIFクルーズには人生で最も素晴らしい2週間の休暇を過ごそうと48人のライオンが集い、生涯の友を得た。訪れたのは、トルコ、クロアチア、ギリシャ、フランス、モナコ、スペイン各国の12の歴史的な都市。
　ライオンたちは、カクテル・パーティーやグループ・ディナーの席で交流し、互いを深く理解するようになった。「旧知の友人と再会し、また新しい仲間にも出会えてとても楽しかった」と話すのは、ハワイのアイエア・パールハーバー・ライオンズクラブのライオンジューン・ブリースク。彼女とご主人のフィリップ氏は、過去7回開催されたすべてのクルーズに参加。そこで知り合ったメンバーとは今も連絡を取り合い、クリスマス・カードを送り合う。
　このクルーズは、ライオンズクラブやLCIFの良いPRの機会にもなる。一般の乗客たちが船のあちらこちらに飾られたライオンズ・マークを見つけて、ライオンズクラブとはどういうグループなのか、どうすればメンバーになれるのかと尋ねることもある。
　クルーズの合間には地元ライオンズ協賛の親善旅行もあった。クロアチアではドゥブロブニク交響楽団のプライベート・コンサートが開催され、地元特産の食事や飲み物が用意された。トルコでは絨毯製造の行程を見学。モナコでは、故グレース・ケリー王妃が結婚式を挙げた教会へ赴き、同じ敷地内にある墓所も訪ねた。
　クルーズの参加には1船室当たり千ドルのMJF献金が必要。クルーズ中に開かれる特別表彰式で理事長からMJFの楯とピンが授与される。2006年のクルーズでは千ドル献金による2万8千ドルを含め、総額20万ドル以上の献金があった。これらはすべて人道的事業に使用される。
　8回目となるLCIFクルーズは初回と同じアラスカ。2007年8月に出航する。今回ひと味違うところは旅の最後に企画されている4日間の鉄道ツアーだ。「最後のフロンティア」と呼ばれるアラスカならではの美しさを発見することが出来るだろう。
　2007年のクルーズについての詳細は、ライオンズ国際協会公式ホームページ（www.lionsclubs.org）を参照頂きたい。

LCIF LIONS CLUBS INTERNATIONAL FOUNDATION

伊奈かっぺい＆さとう宗幸チャリティー・オンステージ

332-C地区（宮城県）

ワーストワンの汚名返上を目指し

332・C地区（宮城県／小池總明ガバナー）は12月2日、仙台市青葉区の宮城県民会館で「伊奈かっぺい＆さとう宗幸チャリティー・オンステージ」を開催した。

同地区は前年度のCSFⅡ献金が目標額の12・7％と、日本の33準地区の中では最も達成率が低かった。そこで小池ガバナーは重点項目の第一にCSFⅡを掲げ、各クラブの公式訪問でも真っ先に話題にした。そして、この状況を変えるため、キャビネット主導のイベントを企画したのである。

中島勝巳地区PR情報委員長によると、「CSFⅠでは332複合地区でトップだったのが、今回は複合地区どころか日本全体でワーストワン。何とかこの汚名を返上したい、そのための起爆剤にしようというのが、このイベントの狙いだった」という。

当日は一人3500円の協賛金で、千人を超える市民が参加。開演2時間前には、県民会館前に長蛇の列が出来る程の盛況ぶり。そのため、開場を1時間早め、視力ファースト事業について紹介する映像を上映した。また、開演に先立ち小池ガバナーが「ライオンズクラブは、この15年間で目の不自由な人を2400万人救うことが出来、ヘレン・ケラー女史がライオンズに対して訴えられた『盲人のための騎士』としての使命を果たすべく活動しています。本日、協賛して頂いた3500円があれば、5人の盲人の方を救うことが出来ます」とあいさつ。協賛への謝意を表すと共に、活動への理解と協力を呼び掛けた。

金額より大切なPR効果

ステージは、さとう宗幸さんのヒット曲『青葉城恋歌』で始まり、さとうさんが温もりのある歌声で5曲を披露。続いて青森放送パーソナリティー・伊奈かっぺいさんの、ズーズー弁による楽しいトークショーがあり、会場は笑いの渦に包まれた。

小池地区ガバナーは、「今回のチャリティー・ショーの準備には、年次大会に匹敵するエネルギーを注ぎ込んだと言っても過言ではありません。常日頃、『ライオンズには一人の英雄もなく、一人の非協力者もいない』のが理想だと話していますが、私自身、一致団結して取り組むことの大切さを再認識しました」と語り、イベントを成功に導いたスタッフに感謝していた。また、「市民の皆さんから協賛して頂いた金額は合計200万円に上りますが、金額よりも、このイベントを通じてライオンズの活動を市民の方々に訴え、理解頂いたことを大変嬉しく思っています。同時に、今後、会員増強にも良い効果が出るのでは、と期待しています」と話していた。

協賛金の一部は当日、ステージ上で小池地区ガバナーから奥山紘一CSFⅡセクター・コーディネーター（山形県・天童王将ライオンズクラブ）へ渡された。

↑市民の協賛金はCSFⅡ献金として、小池ガバナーから奥山セクター・コーディネーターへ渡された

↓イベント終了後、伊奈かっぺいさん、さとう宗幸さんを囲んで

SightFirst Update

死よりも失明を恐れる糖尿病成人患者

ライオンズクラブ国際財団（ＬＣＩＦ）とイーライリリー社が行った調査によると、成人糖尿病患者は早世よりも、失明または治る見込みのない視覚障害を、何よりも恐れていることが判明した。

成人糖尿病患者の少なくとも40％が、視力低下（眼鏡やコンタクトレンズで矯正出来ない症状や、失明など深刻な問題を含む）を最大の恐怖として挙げているのである。それに対し、早世を最大の恐怖として挙げた患者は、国ごとに異なるものの、およそ8～20％であった。

昨年12月に南アフリカ・ケープタウンで開催された第19回国際糖尿病連合会議で、この7カ国調査が発表された。これはアメリカ、フランス、イタリア、ドイツ、南アフリカ、スペイン、イギリス在住の1450人以上の成人糖尿病患者を対象に行ったものである。

現在、糖尿病は成人における失明の主な原因となっている。既に数百万人の成人糖尿病患者が、失明につながる糖尿病性網膜症を患っている。また今回の調査によると、成人糖尿病患者は、いらだち、自立心の喪失、うつ病、自信の喪失など、精神的な問題を、視力低下と関連付けて考えていることが分かった。

LIONS CONQUERING BLINDNESS
SIGHTFIRST

アショク・メータＬＣＩＦ理事長は、「成人糖尿病患者は視力低下によって精神面、自立心、生活面でかなりの影響を受ける可能性があるだろうと考え、視力低下を恐れています。視力低下による患者への計り知れない影響を考えると、私たちは糖尿病の深刻な合併症を遅らせるような対策や、毎年、眼底検査を受けるなどといった予防策への意識を、引き続き向上させる必要があります」と、語っている。

調査に参加した人で失明していない80％以上の患者は、糖尿病性眼病を発見するために、定期的に眼底検査を受けることが重要であると認識しており、大多数の患者は少なくとも年に1回は、眼底検査を受けている。

この調査に協力してくれたＵＣＬＡ医科大学眼科助教授のドナルド・フォン博士は、「糖尿病にかかっている人が視力を保護するために、主体的な予防策を取ろうとしていることに勇気付けられています。私たちが推進する目標は、出来るだけ多くの糖尿病患者が視力を守るために、この対策を取ることです」と、話している。

年間２２０億ドル以上が、視力低下に苦しむ人々の治療やサービスに使われている。糖尿病患者が視力低下に苦しむ確率は健常者の25倍で、糖尿病を長く患っている患者程、網膜症になる危険性が高くなる。が、早期発見と適切な治療を受けることで、ほとんどの視力低下は予防することが出来る。

これを踏まえ、各クラブはライオンズ・アイヘルス・プログラム（ＬＥＨＰ）を通じて、地域住民に視力保護の情報を提供し、眼病にかかる可能性がある人々を対象に眼病に関する教育を行う必要がある。ＬＥＨＰは緑内障、糖尿病性網膜症の早期発見、及び適切な治療を施すために作られたもので、ライオンズは具体的に、次のような活動を行う。

市民の意識を高めるために、目の健康に関する情報を配布したり、情報セミナーを開催する。更には、毎年眼底検査を受けることを奨励し、また実際に眼科の検査を行うなどである。

ＬＥＨＰはＬＣＩＦ交付金やイーライリリー社、アラガン社の協力によって成り立っている。印刷物、宣伝資料などを注文される場合は、左記へ連絡されたい。

電子メール：lehp@lionsclubs.org

「見えない障害」に悩む人たちのために、私たちに何が出来るのか

～高次脳機能障害の啓発に取り組む岡山西ライオンズクラブの支援活動～

高次脳機能障害とは、交通事故や、脳卒中などの病気による脳損傷に伴う記憶、注意、遂行機能障害、社会的行動障害などの後遺症だ。外見から分かりにくく、本人に自覚が薄い場合も多いことから「見えない障害」「隠れた障害」と呼ばれる。この障害を抱える人は全国で推計30万人。他の障害に比べて対応が遅れ、医療と福祉の谷間に置かれてきた。公的な支援は緒についたばかりで、一般社会の障害に対する理解も少ないのが現状だ。

高次脳機能障害者と家族が直面している問題と、6年前から支援を続ける岡山西ライオンズクラブの活動をリポートする。

当事者と家族を支える支援活動

昨年11月3日～4日、岡山県倉敷市で脳外傷友の会第6回全国大会が開催された。この大会は、高次脳機能障害の当事者と家族、支援者らにとって貴重な情報交換の場となっている。同じ障害に悩む人々と励まし

合い、勇気を奮い起こす機会でもある。3日夜には岡山西ライオンズクラブ（海野静子会長／52人）の協力により倉敷チボリ公園のホールで交流会が開かれ、全国から335人が参加した。交流会は、愛知県から参加した福祉作業所による「笑い太鼓」でにぎやかに開幕。地元倉敷の作業所かたつむりも、リハビリの一環で練習してきたギターやハンドベルの演奏を披露した。緊張した表情で、懸命に演奏する当事者たちの姿に、思わず涙ぐむ指導者の姿もあった。

参加者の中には車いすを利用するなど身体障害を伴う人もいるが、一見したところ障害を抱えているとは分からない人も多い。しかし、太鼓の音におびえて会場に入れなかったり、何かの拍子で急に怒り出す人も見られた。会の途中で参加者の一人が姿をくらまし、公園内を捜索するという一幕も。わずかながら当事者家族の抱える苦労の一端が垣間見えた。

翌4日には「高次脳機能障害者の地域生活を支援する」をテーマに、同じ倉敷市内にある川崎医療福祉大学で講演やシンポジウムが行われ、大勢の家族や支援者らが熱心に聞き入っていた。

岡山西ライオンズクラブは、この大会を主催した地元のNPO法人おかやま脳外傷友の会・モモが発足した当初から支援を続けている。交流会開催のために支援金150万円を贈ると共に、会場での案内役や舞台の設営など裏方を務めた。

そもそも、同クラブが高次脳機能障害の支援活動に取り組んだのは、クラブの会員2人が、高次脳機能障害者の家族を抱えていたことがきっかけだった。

多様な症状が現れる高次脳機能障害

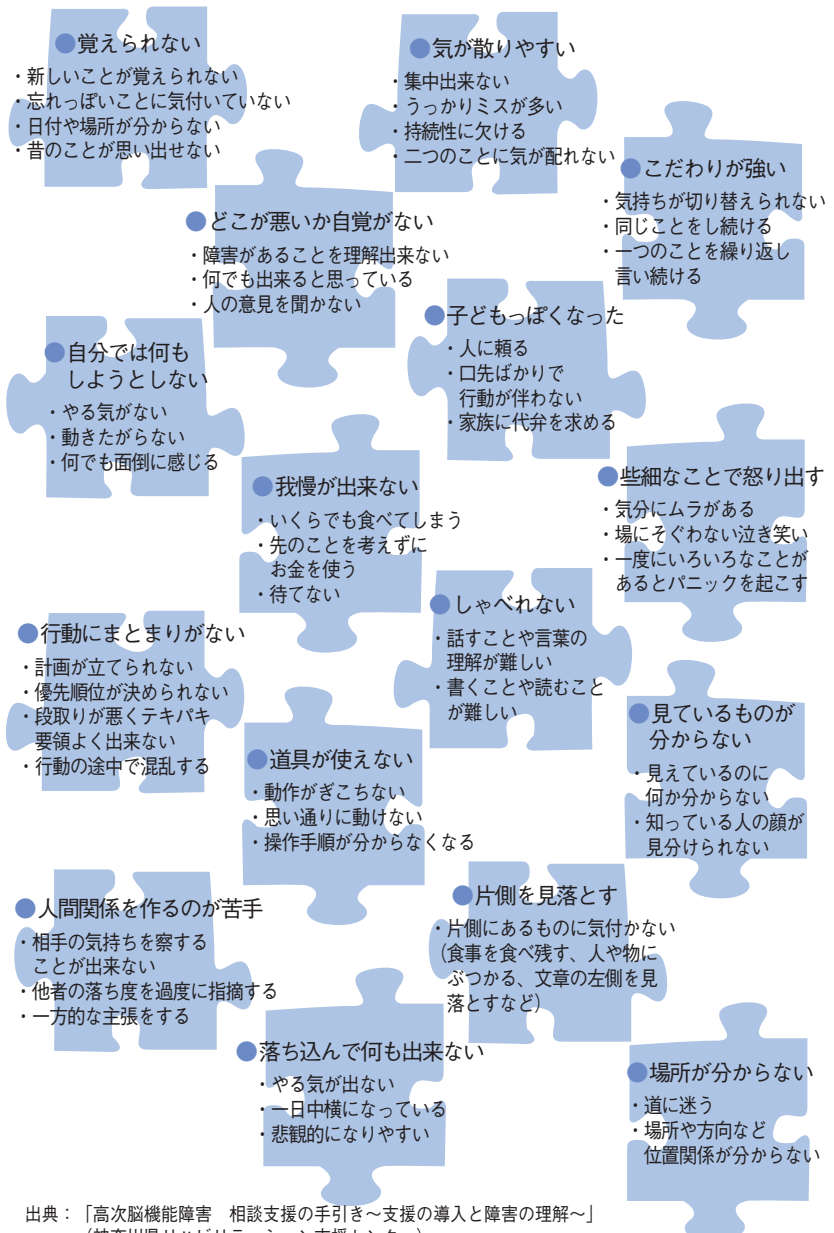
18年前、当時高校1年生だったライオン南石渉の長男は、自転車通学の途中に車にはねられ頭を強く打った。鎖骨骨折と脳挫傷で、意識不明の状態が47日間も続いた。身体には右半身の震えが止まらないという後遺症が生じ、意識が戻っても、何かがおかしい。動作が遅く、考えることが幼稚になり、気分にムラがあって精神的に安定を欠くようになった。しかし障害者として認められず、家族は「事故に遭ったのだから仕方がない」と考えるしかなかった。

「高次脳機能障害」という言葉が世に出たのは1998年頃で、ライオン南石がマスコミ報道でこの障害を知ったのは、事故から9年後のことだった。

救命救急医療の進歩により、多くの命が救われるようになった。一方で、後遺症によって社会生活に困難を来す人もまた増えている。しかし高次脳機能障害に対する施策は医療、福祉の両面で立ち後れてきた。障害は大きく知的障害、身体障害、精神障害に分類されるが、高次脳機能障害はそのいずれとも内容が違うため、障害者認定がもらえない状態に置かれていた。そんな状況を何とかしようと、各地に当事者団体が作られ始め、2000年4月には日本脳外傷友の会が設立。全国にネットワークを広げながら、国の対策と支援を求める運動が展開されてきた。

厚生労働省は01年（平成13年度）から5年間にわたり全国12の拠点地域で高次脳機能障害支援モデル事業を実施。これにより初めて診断基準が決まり、精神障害に加えられるこ

とになった。訓練プログラム、支援プログラムも作成され、昨年10月からは各都道府県で一斉に支援普及事業がスタート。自治体による格差など多くの問題を抱えながらも、医療と福祉が連携した公的支援が徐々に進みつつある。しかし、一般社会の理解はまだ進んでいない。

一口に高次脳機能障害と言っても、その症状は、新しいことが覚えられない、話すことや言葉の理解が難しい、集中出来ないなどさまざまだ（別掲の一覧を参照）。損傷を受けた脳の部位や程度によって人それぞれ、多種多様に異なる。その上、外見からは障害があるように見えない人も多く、当事者自身に自覚のない場合もある。それがこの障害を一層複雑なものにしている。

「この障害を理解してもらうのは非常に難しい。常識では理解出来ないのです。症状の説明をしても、そんなことはあり得ないと言われる。あるいは、そんなことは誰にでもあると言われる。もの忘れぐらい自分でもよくあると言うのです。しかし当事者たちにとってはそれが常態です。彼らに必要なのは、まずご近所、地域の人たちに障害について理解してもらうことです」

友の会・モモの清水正紀会長は、地道にねばり強く努力を続けていくしかないと話す。

まず啓発。岡山西ライオンズの支援

岡山西ライオンズクラブは2人の会員を通じて高次脳機能障害の当事者と家族の苦しみを知り、支援活動をスタートさせた。岡山には2001年7月に友の会・モモが発足しており、翌02年に開かれた「ふれあいフェスティバル」に協力して、バザーを出店したのが最初のアクティビティだ。

「当初は私たち会員もこの障害に関する知識は全くありませんでした。公的支援の確立を目指すためにも、まずは知ってもらうこと、理解がな

●覚えられない
・新しいことが覚えられない
・忘れっぽいことに気付いていない
・日付や場所が分からない
・昔のことが思い出せない

●気が散りやすい
・集中出来ない
・うっかりミスが多い
・持続性に欠ける
・二つのことに気が配れない

●こだわりが強い
・気持ちが切り替えられない
・同じことをし続ける
・一つのことを繰り返し言い続ける

●どこが悪いか自覚がない
・障害があることを理解出来ない
・何でも出来ると思っている
・人の意見を聞かない

●子どもっぽくなった
・人に頼る
・口先ばかりで行動が伴わない
・家族に代弁を求める

●自分では何もしようとしない
・やる気がない
・動きたがらない
・何でも面倒に感じる

●我慢が出来ない
・いくらでも食べてしまう
・先のことを考えずにお金を使う
・待てない

●些細なことで怒り出す
・気分にムラがある
・場にそぐわない泣き笑い
・一度にいろいろなことがあるとパニックを起こす

●しゃべれない
・話すことや言葉の理解が難しい
・書くことや読むことが難しい

●行動にまとまりがない
・計画が立てられない
・優先順位が決められない
・段取りが悪くテキパキ要領よく出来ない
・行動の途中で混乱する

●見ているものが分からない
・見えているのに何か分からない
・知っている人の顔が見分けられない

●道具が使えない
・動作がぎこちない
・思い通りに動けない
・操作手順が分からなくなる

●片側を見落とす
・片側にあるものに気付かない（食事を食べ残す、人や物にぶつかる、文章の左側を見落とすなど）

●人間関係を作るのが苦手
・相手の気持ちを察することが出来ない
・他者の落ち度を過度に指摘する
・一方的な主張をする

●落ち込んで何も出来ない
・やる気が出ない
・一日中横になっている
・悲観的になりやすい

●場所が分からない
・道に迷う
・場所や方向など位置関係が分からない

出典：「高次脳機能障害　相談支援の手引き～支援の導入と障害の理解～」（神奈川県リハビリテーション支援センター）

ければ支援は得られないだろうと考えました。そこで、クラブとしては啓発活動をメーンに据え、資金的な援助を含めた支援に取り組むことになったのです」

支援活動で中心的な役割を担うライオン平松敏男はこう振り返る。

これまで2度の音楽祭を始めとするチャリティー・イベントの開催や、啓発チラシの作成、配布を実施してきた。「チャリティー」というと普通は寄付金を集める催しだが、この場合は入場無料で多くの市民を集め、入場者に高次脳機能障害についてアピールする。友の会・モモと協力しながら、少しでも多くの人に「高次脳機能障害」の言葉を知ってもらおうと努力を続けている。

今回の岡山での全国大会開催に当たっては、新たにチラシ2万枚を作成。大会を1週間後に控えた10月25日にJR岡山駅前で配布し、募金活動も行った。この時、会員たちに啓発活動の必要性を再認識させる出来事があった。その場でチラシを読んだ女性から「交通事故に遭った主人がここに書かれているのと同じ症状で、家族が毎日困っています。どこに相談したらいいのですか」と切実な声が寄せられたのだ。

「何かおかしい。でもどこがおかしいか分からない。高次脳機能障害であることを知らないまま、家庭内に引きこもり孤立している家族はまだ多いと思います。そうした人たちにこの障害の存在を知らせるためにも啓発が必要です」と、ライオン平松は話す。

岡山西ライオンズクラブの啓発活動

全国に広げたい支援の輪

当事者と家族に大きな障壁になっているのが福祉作業所の問題だ。既存の作業所では高次脳機能障害に対応しきれず、当事者もなじめない場合が多いため受け入れ先がないと言う。友の会・モモは2003年、独自に地域福祉作業所かたつむりを立ち上げた。自立の道は険しいが、居場所が出来た意義は大きい。

昨年10月に障害者自立支援法が施行されたが、ライオン南石はこれが「孤立支援」にならないかと危惧している。

「人は一人では生きていけない。人との触れ合いの中で目標や生き甲斐が生まれます。孤立してしまったら人生そのものの意味がなくなってしまうと私は思います。当事者と家族にとっては、触れ合いの中で暮らせる環境が必要なのです」

障害を持つ人たちが地域の中で安心して暮らせる環境を整えるためにも、全国のライオンズに支援の輪を広げていけたらと、岡山西ライオンズクラブでは考えている。

取材を終えて

ライオン誌日本語版委員 **尾﨑明雄**
（鳥取県・倉吉打吹ライオンズクラブ）

岡山西ライオンズクラブは、高次脳機能障害の当事者を抱えて日頃の苦労をしている会員の姿に、クラブが一丸となってこの苦労を共有し、支え合いと奉仕の精神に火が着いた。

高次脳機能障害は全国に約30万人と推定されているが、社会的に孤立している当事者家族も多く、家庭内の引き込もりによる2次的障害が危惧されている。このところメディアの注目を集めている悪質な飲酒運転の横行の背後にも、障害に苦しむ多くの人たちの姿が見えてくる。

昨年10月の障害者自立支援法施行により、障害者に対する支援は改革の渦中にある。障害を抱え、悩む当事者と家族が見捨てられることのないように、一般社会に理解を広める活動が重要となる。

岡山西ライオンズクラブの活動の火の元には、一昨年度から継続している例会出席100％の実績がある。この実績が会員の意識を高め、アクティビティの原動力となり、多くの市民を巻き込み感動を与えながら、活動を成功に導いている。この精神の火は永遠に燃え続けるであろう。

SCENE

「オーエス、オーエス」の掛け声で会場は熱気ムンムン。力を合わせて、勝利をつかめ！

兵庫県・神戸須磨ライオンズクラブ

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

主審の「プル」の一声で、36メートルの綱が一気にピンッと張りつめる。綱の両側にはそれぞれ8人。身体の大きな子と小さい子、男の子に女の子も入り交じり、自分の陣地へ綱を手繰り寄せようと必死の形相で歯を食いしばる。

12月17日、今年で5回目を迎える恒例の「神戸綱引ジュニアカップ2006」が神戸市内で行われた。もともとはある別の団体が始めた大会だったが、その主催者が1度の開催で撤退。大会を後援していた兵庫県綱引連盟から「後を引き継いでほしい」と打診を受けたのが、現在、主催を務める神戸須磨ライオンズクラブ（善本秀知会長／85人）である。

「綱引きは誰が活躍したから勝ったとか、誰が失敗したから負けたというのが一切ない、ヒーローが生まれないスポーツ。そういう意味では、あまり運動が得意ではない子どもがいても、一緒に勝ち負けを共有出来るスポーツなんです。ちょうどクラブで力を入れつつあ

った青少年育成事業の目的と合致したため、アクティビティとして採用しました」とは、善本会長の談。今年は、神戸市内の小学生ら30チームが参加した。1チームは10人までで、同じ学校同士でなくてもチームを組んで参加出来るので、ご近所同士や野球チームで参加する子どももいる。

競技は男子（男女混成を含む）と女子に分かれて行われる。競技前には体重計測。10人のうち試合に出場する8人の合計体重が280㌔以下という体重制限が設けられているからだ。大会を後援する兵庫県綱引連盟と日本綱引連盟の協力によって公式競技の審判団が参加しているので、冒頭のプル（開始の合図）や体重制限など国際ルールに則った競技が可能というわけ。予選ブロックを1位、2位で通過したチームで決勝トーナメントが争われ、熱戦の末、男女それぞれの部門で優勝チームが決まった。

男子部門で見事優勝したのは、11月中旬からこの大会に合わせて、週3回の練習をしてきた男女混成チーム。5年生と3年生が中心のチームなので来年も楽しみ、と思いきや、例の体重制限があるのでそう簡単にはいかないようだ。子どもたちに勝利の方程式を聞いてみると「足は肩幅、腰を落とし、上を見ながら引く」と、口をそろえるあたりはさすが優勝チーム、チームワークもぴったりだ。

こころのチキンスープ●ライオンズ編

こころのヒマワリ

構成／青山研

「私は、贈り物をする人の心を重視する」
――マルグリット・ド・ナヴァール――

晩秋なのにヒマワリが咲いている。並大抵の数ではない。３万本。３反歩の広さの休耕田いっぱいに咲き誇っている。鮮やかな黄色が見事だ。

熊本ライオンズクラブのL中島憲行がヒマワリに関心を持ったのは、13年も前のことになる。自宅のある熊本県嘉島町は熊本市につながる田園地帯だが、国の減反政策の影響で、家の周りには休耕田が広がる。その光景を見る度に、心の中まで寒々とした風が吹き過ぎるように感じた。

「この空いている田んぼ、寂しい風景を何とか出来ないものだろうか」

そう思っていた矢先、購読している農業新聞に農業試験場で咲いているヒマワリの写真が載っていた。10月だった。

「ヒマワリは夏の花なのに、なぜ今頃咲くんだ？」

早速、農業試験場を訪ね疑問をぶつけた。初めて聞く話ばかりだった。ヒマワリは、十分な日照さえあれば、気温が多少下がっても花を咲かせることが出来た。北海道の北竜町では毎夏、１３０万本ものヒマワリを咲かせて町起こしをし、ヒマワリ油を特産品として売り出すのに成功。20万人以上の観光客を集めていることも知った。

行動の人L中島は、早速、北海道へ飛び、レンタカーを借りて、北竜町へ突っ走った。圧倒された。なだらかな丘は見わたす限りヒマワリの黄色に染まり、想像を超えた迫力だった。

「規模は小さくてもいい。嘉島町だって出来ないことはないはずだ。やってみよう」

町へ帰ったL中島は、休耕田を借りて、２万５千本分の種をまいた。試行錯誤の連続だった。初めは機械を使わず、手で丁寧にまいた。翌日は腰が痛くて歩けない。小型の機械を使ったら膝をやられた。本業の石油販売業にも障りが出る。考えた末、大豆まき機を使った。ヒマワリは東を向いて咲くというので、道路から良く見える方向を選んで植えたが、10センチ程しか伸びず、花もつけなかった。排水の悪い土地だった。鳥が種をついばんで駄目にしたこともあった。麦を、餌にして切り抜けた。

イラスト／吉田悦子

結果が出るまであきらめなかった。2年目には空いている畑を借りて、3万5千本分の種をまいた。やがて、花を咲かせるには、9月8日頃が種まきに相応しいことが分かった。その頃にまけば、11月10日頃に花が咲き、12月3日頃まで花を楽しめた。

作業は奥さんの恵美さんと2人でやっていたが、その内に知り合いの婦人会のメンバーが手伝いだし、冬のヒマワリを見に訪れる人も増えていった。花の時期の終わりになると、「どうぞお持ち帰りください」という案内を出した。花をもらった人の笑顔が何よりの贈り物に思えた。

2004年からは畑の一部を刈り取って、花に囲まれたコンサートを始めた。地元の演奏グループがボランティアで出演してくれた。ヒマワリに音楽は良く似合った。コンサートには地元の老人ホームのお年寄りも招かれた。「埴生の宿」や「ふるさと」などお年寄りに馴染みの音楽が、花畑に響き、皆が声を合わせて歌った。歌声もヒマワリに良く似合った。涙ぐんで演奏している人もいた。ヒマワリがにじんで見え、美しかった。

2005年のコンサートには、フラワーデザイナーの中村勝子さんが訪れた。中村さんは、翌年11月に開かれる「スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム熊本」の事務局長をしていた。スペシャルオリンピックスは知的発達障害を持った人たちのオリンピックだ。

中村さんは、そのオリンピックの開会式場をヒマワリで飾り、参加するアスリートたちにもヒマワリを贈りたいと考えていた。ライオン中島はこの申し出を快く引き受け、いつもより1万2千本多く植えることにした。間に合うようにと、種まきも早めて8月下旬に終わった。ところが、好天が続き、開花が早くなってしまった。慌てた。近くの宇土市の有志が育てているヒマワリを譲り受けて開会式に間に合わせた。だがアスリート表彰用の1500本が足りない。別の畑で遅咲きのヒマワリが蕾をつけていた。気が気ではなかったが、競技の最終日、40の都道府県から参加した1025人のアスリートたちに、メダルと一緒にライオン中島の丹精込めたヒマワリが贈られた。一人ひとりが高々と花をかざし、会場いっぱいの拍手を浴びた。ライオン中島には、見つめる人たちの心の中にも、まばゆいばかりのヒマワリが咲いているように思えた。13年前の一粒の種が、限りない多くの人に大輪のヒマワリを贈ったのだった。

3

4

5

習の成果を発揮、郷土芸能の部では3団体40人が郷土太鼓を披露した。応援を含め約400人が参加し、1日を楽しんだ。

石川県・小松（334-D）
12月10日、こまつ芸術劇場うららにて教育・防犯講演会を実施した。講師に金城大学短期大学部の丹羽俊夫氏を招き、講演後は小松市教育長と小松警察署長の3人で討論会を行い、多くの聴衆を得ることが出来た。

滋賀県・志賀堅田（335-C）写真3
最も重要なアクティビティの一つとなっている青少年健全育成の一環として10月29日、少年少女球技大会を実施し、参加選手たちは楽しみながら気持ちよい汗を流した。今回の種目であるバレーボールは171人もの参加があり、父兄も含めるとおよそ350人が会場に詰め掛け、大いに盛り上がった。

兵庫県・三木中央（335-D）
11月11日、障害者の小規模作業所「じゃがいもの家」の収穫祭に参加した。当日はおよそ200人が参加し、障害を持った人たちと健常者との触れ合いのイベントとなった。

岡山県・津山（336-B）
10月29日、「津山食堂喫茶祭り」に参加し、会員持ち寄りの品物によるバザーを行った。その際、CSFⅡに一般の方にも協力、参加してもらおうと専用の募金箱を設置した。CSFⅡ事務局とキャビネット事務局から取り寄せたパンフレットを配布し、募金を呼び掛けた。

岡山県・倉敷平成（336-B）写真4
11月10日、倉敷市立養護学校の花壇の花の植え替えを生徒、先生と共に行った。2002年に花壇を造り、その後継続的に年2回の植え替えを行ってきた。「平成花壇」と名づけて頂き、生徒の皆さん、地域の方々に親しまれている。

山口県・宇部ハーモニー（336-D）写真5
12月13日、知的障害者通所授産施設「うべくるみ園」のクリスマス会に参加した。ピアノ演奏でクリスマスソングを園生らと合唱。その後サンタ役が入場して、持参したお菓子と手作りのクリスマスカードを全員にプレゼントした。

鹿児島県・末吉（337-D）
メンバー経営のペットクリニックが「ドッグランCopain」を開設。そこで青少年育成の一環として、12月25日、町内の保育園園児およそ50人を招いて犬や猫と楽しい時間を過ごしてもらった。クリスマスということもあってメンバーがサンタに変身し、園児たちも大喜びだった。

■投稿要領→62㌻
※サバンナ(オンライン報告システム)からも文字原稿を投稿頂けます。サバンナで投稿された原稿は、『ライオン』誌ウェブマガジンの「クラブ・リポート」でご紹介していますので、こちらもご覧ください

サービス・アクティビティ

神奈川県・川崎中原（330-B）
11月4日、川崎市中原市民館で行われた「第22回川崎市スチューデント・インターナショナル・フェスティバル」を後援した。市内の小、中学生らが海外生活の体験談や、音楽、舞踊、劇など国際性豊かな文化を発表した。

埼玉県・深谷（330-C）
11月10日、保育園児56人を招待し、芋掘り、芋煮会、露店を通じて地域の連帯を高めることを目的とした「第2回回遊園」を開催した。当日はメンバー27人、ライオン・レディー11人が参加。メンバーが慣れない手つきで準備した綿あめ屋や風船屋は好評で、手品の実演では大きな歓声が上がった。

北海道・上士幌（331-B）
11月26日、特別養護老人ホーム「すずらん荘」を訪れ、お年寄りに手打ちそばを振舞った。そば打ち訪問は今年で16年目を迎え、そばをこねるところから実演し、約120食を提供した。

北海道・今金（331-C）
11月26日、今金町総合体育館にて第28回近隣町村少年空手道大会を開催した。今金、江差、八雲、上ノ国の4町村が参加し、子どもたちは広い体育館で力いっぱい熱戦を繰り広げた。

青森県・弘前（332-A）
12月5日、弘前市立東目屋中学校にて5度目となる平和ポスター・コンテストの表彰式を行った。生徒26人に「平和を祝して」をテーマにポスターを描いてもらい、受賞者へ表彰状と記念品を大中廣会長から贈呈。参加してくれた生徒たち全員にも参加賞として記念品を贈った。

山形県・川西山形（332-E）写真❶
11月28日、川西町中央公民館において献血事業を行った。9時半から2時間実施し、36人の協力があり、最終的に400ml24人、200ml5人から採血した。

千葉県・小見川（333-C）
12月21日、小見川中学校の全校生徒と先生に日頃のストレスを発散してもらおうと三遊亭とん馬師匠の独演会と、SFP（スカーフェイスプロジェクト）の音楽ライブを開催した。会場は生徒らの笑顔であふれ、大いに盛り上がり大成功のうちに幕を閉じた。

岐阜県・関（334-B）写真❷
12月9日、関市わかくさプラザにて「北朝鮮拉致被害者を救う関市民の会」を主催した。横田めぐみさんの実弟である横田拓也さんらを招き講演会を行った。併せて署名活動を行い、12月5日から7日には市役所アトリウムで写真展も行った。当日は会場前にも写真を展示し、約200人が来場した。

三重県・津西（334-B）
11月23日、「新津市民チャリティー芸能大会」を開催した。のど自慢の部では参加者70人が日頃の練

CLUB REPORT クラブ・リポート

●この欄ではライオンズクラブ、レオクラブ、ライオネスクラブの活動報告を扱います。詳しい投稿要領は62ページ、または『ライオン』誌ウェブ・マガジンをご覧ください。

鹿児島県・鹿屋ライオンズクラブ

内臓脂肪を歩いて燃やそう

ウォーキング

イラスト／篠田和夫

鹿屋ライオンズクラブ（78人）は10月29日、結成40周年を記念し「メタボリックシンドローム予防ウォーキング大会」を開催した。鹿屋市けんこう福祉フェスタの一環として実施したもので、約400人の参加者が、鹿屋市の健康増進センターを発着点に5キロの距離を歩いた。

ウォーキングに先立ち、開会式の中で内科医による予防講話を実施。「日本人は長い飢餓の歴史を経てお り、本来飢餓に強い。しかし急に飽食になり、体質にそぐわない高カロリーの食生活になった。更に、楽をし歩かなくなった。余ったカロリーは脂肪として腹部などに蓄積され、インシュリンや中性脂肪が正しい働きをせず、高血圧や糖尿病の原因になっている。予防のためには生活習慣を改め、余計にアルコールを飲まず、1回30～50分の運動を1日置きにしてほしい」と呼び掛けた。

その後、十分な準備運動と水分補給をした参加者らは、1時間以上かけて5キロの道のりを歩き、爽やかな秋晴れの中、気持ち良い汗を流した。

（幹事／東優）

連絡先→0994・43・3624

（編）メタボリックシンドローム＝過剰な内臓脂肪の蓄積は、動脈硬化やその他生活習慣病を引き起こします。少しずつでも継続して運動したいものです。

兵庫県・尼崎武庫ライオンズクラブ

富松城跡を生かし市民と交流

尼崎武庫ライオンズクラブ（前田卓三会長／39人）は地域住民と共に「わが町の地域歴史遺産を生かした町づくり」に挑戦している。前田会長は今年度のテーマに「継ぐ（つなぐ）―継承する・継続は力なり―」を掲げ、市内の歴史遺産に着目。町の魅力を再発見し、それを次世代に継承しようと、市民参加型の活動を提唱した。

尼崎市北部の富松地区に、室町時代に築城された富松城跡がある。土塁と堀の一部が残り、550年前の面影を今に伝えている。地元では「富松城跡を活かすまちづくり委員会」が結成され、その保存と活用の取り組みを行っている。

クラブもこの活動に参加し、10月21、22日には、尼崎市民まつりに富松城跡保存のパネルやのぼりなどを展示。地域歴史遺産の大切さを広報し、啓発に努めた。

活動を成功させるには会員の熱意ある行動力が不可欠だ。市民からの期待も大きいため、今後も継続して取り組んでいきたい。（富松アクティビティ委員長／山中幸一）

連絡先→06・6487・3510

（編）現在クラブでは活動を生かし、富松城跡に関するマニュアル本を作成中だそうです。

長野県・高瀬ライオンズクラブ

奉仕視野にそば打ち練習

高瀬ライオンズクラブ（矢口新平会長／31人）は北アルプスの麓、安曇野にあって、高瀬川を挟んで隣接する池田町と松川村を奉仕地域にしている。信州と言えばそばが有名だが、11月25日、その新そば粉を使ったそば打ち例会を実施した。

これは地域の代表的な食を奉仕活動に生かそうと考えたもので、講師はそば打ち名人の矢口会長を始め、会員の経験者が務めた。そば打ちは初めてという会員が多かったが、教え方がいいのか、まずまずの手際で打ち上がった。早速茹でてみると、そばの太さはばらばらだが、味は抜群。打ちたてのそばは大好評だった。

今年度、クラブでは地域に即した奉仕を方針に掲げており、近々、そば打ち技術をアクティビティに取り入れていきたいと思っている。

（第1副会長／桂川哲三）

連絡先↓0261・62・9956

（編）当日は奉仕などを通じてお付き合いのある地域在住の外国人らをゲストに招き、一緒にそば打ちを楽しみ、食文化で交流したそうです。

京都薫風ライオンズクラブ

幼稚園で茶道教室を実施

京都薫風ライオンズクラブ（42人）は女性クラブの特性を生かしたアクティビティとして、9月から中京もえぎ幼稚園の年長組を対象に茶道教室「お茶ごっこ」の指導を行っている。同幼稚園では地域住民や保護者が園児と一緒になって参加する体験教育を進めており、その一環として当クラブ会員が、子どもや孫に話しかけるようにしながら、週1回の茶道指導に当たっている。

青少年指導の重要性が言われている昨今、子どもたちの豊かな人間性や創造性を育んでいくために、文化芸術に直接触れ、その素晴らしさを体験する必要性が、認識されてきている。そのため当クラブとしても、作法や点前順序を教えるのが目的ではなく、その場の雰囲気を楽しむことを心掛け、茶道を通じて感謝する心、お互いを思いやる心を子どもたちに伝えていければと願っている。

11月21日には京都府内外から幼稚園の教諭約100人が見え、可愛い子どもたちの心の通ったお稽古風景に、時折笑みをこぼしながら、目を細めて見学されていた。

今後とも、地域住民と共に築く文化体験教育を通じて、次代を担う幼児育成指導の活動に力を注いでいきたいと思っている。

（会長／村上美恵子）

連絡先↓075・255・1088

（編）大人でもなかなか茶道を経験する機会は少ないので、貴重な体験が出来て、うらやましいですね。

大阪府・柏原ライオンズクラブ
キッズ・ファクトリー・ツアー

柏原ライオンズクラブ（辰巳正夫会長／65人）は10月21日、「ものを作る喜び」「環境との共生」をテーマに「キッズ・ファクトリー・ツアー」を開催した。柏原市内の小学校5、6年生を対象に募集したところ定員を大幅に上回る応募があったが、見学先の施設の関係で90人に絞らせてもらった。

昨今の子どもたちを取り巻く環境は複雑である。パソコンやテレビゲームの氾濫は、本来なら体を動かして得る満足感や達成感をすべてバーチャルに置き換えてしまう。

そこで我々は、子どもたちが自分で「物を作る喜び」を実体験し、自分自身で作ったものから「使う喜び」を感じてほしいと考えた。体験先として選んだのは、京友禅体験工房丸益西村屋。

店主の西村良雄さんは伝統工芸士でもあり、その指導の下、友禅染めを経験してもらった。参加者全員、出来栄えに満足したようで、作品を大切に持ち帰った。

午後は近畿コカコーラ・ボトラーズ京都工場を見学。最新設備と環境への配慮を兼ね備えた工場を見せてもらった。子どもたちは、午前中に体験した伝統的な技とはまた違う、日本の技術力の素晴らしさを理解してくれたと思う。

帰途、子どもたちからは「おっちゃん、来年はいつするの？」という声がたくさん聞かれた。その質問に、メンバー一同、緊張感が安堵感に変わる心地良さを感じた。（YE・青少年指導委員長／福田眞吾）

連絡先↓072・971・1676

（編）昼食は他校の生徒との交流も兼ねてホテルでのバイキングを楽しんだそうです。

兵庫県・神戸湊川ライオンズクラブ
老人ホームで検眼と眼鏡贈呈

神戸湊川ライオンズクラブ（明山安次会長／32人）は10月22日、「目の愛護デー」にちなむアクティビティを実施した。30回目となった今回は、神戸市兵庫区の夢野老人ホームでお年寄りの検眼を行うと共に、眼鏡の調整と贈呈を行った。

当日はメンバー11人の他、ライオン・レディーや、メンバーが経営する眼鏡店の社員の方にも参加して頂き、眼科医の協力の下、目の検査を実施。視力が合わなくなった古い眼鏡は新調し、新たに眼鏡が必要な方へはその方に合った眼鏡を処方。いずれも後日、クラブの負担で眼鏡を贈ることになっている。

老人ホームの長谷明三代表からは「我々高齢者に対して、目の愛護デーでこのように検眼と眼鏡のご支援を頂き、そのご厚情に大変感謝致します」との言葉があった。また入所者の方々が、感謝の気持ちを込めて「リンゴの歌」を歌ってくださった。

お年寄りに大変喜んで頂き、メンバーらの協力で無事にアクティビティを成功させることが出来た。来年も継続事業として力を入れていきたい。（保健委員長／原田勝巳）

連絡先↓078・291・0084

（編）入所者の方々も新しい眼鏡が届く日がとても待ち遠しいですね。視界が明るくなると心もウキウキします。

東京荒川ライオンズクラブ

「思い出のクリスマス」を開催

東京荒川ライオンズクラブ（栗林正次会長／46人）は12月19日、心身に障害を持つ方たちを招き、サンパール荒川で「思い出のクリスマス」を開催した。

当日は、荒川区手をつなぐ親の会や視聴覚障害者協会などを通じ、180人の方を招待。荒川区社会福祉協議会、手話通訳、東京青年会議所荒川委員会ら多くのボランティアの応援を得て、クリスマスの素敵な時間を共に過ごした。

障害者のバンド「ＷＩＴＨ」によるクリスマス音楽の演奏では、会場から手拍子が起こり、熱気にあふれた。続く抽選会でも、皆、目を輝かせ喜んでくれた。景品はメンバーが持ち寄ったもので、高価ではないが、真心の込もった品を用意した。

今回は「手作りのクリスマス」をモットーに、メンバーの創意工夫でさまざまな企画を実行。参加者からは「思い出のクリスマスをありがとう」との声を頂き、ぜひ来年もと決意を新たにした。障害のある方たちとメンバーが交わす、この生きた「ウィ・サーブ」の言葉をこれからも大切にし、多くの人との絆をより強く結びたいと願っている。また我々自身、今回の奉仕活動を通して大きな感動を得た。これを糧に、今後も奉仕活動を続けていきたい。

（第2副会長／稲毛田正勝）

連絡先↓048・226・5154

（編）メンバーによる創作劇「日本一の桃太郎」も披露され、笑いと惜しみない拍手を頂いたそうです。

秋田県・湯沢秋田ライオンズクラブ

盲導犬ふれあい広場

湯沢秋田ライオンズクラブ（渡部正明会長／42人）は10月21日、雄勝小野小町、稲川両クラブの協賛を得て、湯沢市大町商店街商工祭で「盲導犬ふれあい広場」を開設した。視覚障害者支援事業の一環として行ったもので、盲導犬に対する理解を深めてもらおうと企画した。

ふれあい広場には、写真とビデオのコーナーを設置。それぞれ、パピーウォーカーの元で育つ子犬時代、ユーザーとの感動的な出会いや別れなど、盲導犬の生涯をまとめており、多くの市民が足を止めてくれた。

体験コーナーでは、訪れた市民がアイマスクを付け、音の出る特殊なボールを転がしながら打ち合う卓球（サウンドテーブルテニス）を体験。また盲導犬ふれあいコーナーでは、盲導犬と記念撮影をしたり、視覚障害の方たちに話を聞く子どもたちの姿が見受けられた。

盲導犬は秋田県の3頭の他、北海道からも2頭が参加してくれ、ふれあい広場は終日、大勢の人で盛り上がった。盲導犬を初めて見る方が多く、今回の企画が地域の人たちの関心を高める大変良い機会になったと思う。なお、5頭の盲導犬と共に、盲導犬育成のための街頭募金も行い、8万5020円が集まった。

（幹事／前田利廣）

連絡先→0183・72・2065

（編）雪国・秋田の場合、盲導犬も雪道訓練を受ける必要があります。現在、この訓練を実施している国内の訓練所は北海道にしかなく、北国の視覚障害者にとっては厳しい状況となっています。

兵庫県・尼崎北ライオンズクラブ

AED普及キャンペーンを展開

2004年7月から、一般市民にも自動体外式除細動器（AED）の使用が認められ、以後、スポーツ施設や空港、新幹線などに設置されるようになった。しかし、AEDに対する行政の施策は消極的であり、社会的な認識も浅いのが現状である。

これをふまえ、尼崎北ライオンズクラブ（林茂会長／34人）では結成45周年記念アクティビティとして「AED普及キャンペーン」を展開。「少しの愛と勇気があれば私たちでも人の命が救えます」をスローガンに、次のようなアクティビティを行っている。

まず、AEDを3台購入し、兵庫国体とそれに続く全国障害者スポーツ大会の会期中、尼崎会場に貸与。大会終了後に、各学校・ボランティア団体への貸し出し用として、尼崎市青少年センターに寄贈した。

また「AEDを用いた救急蘇生法」の講習会も開催。10月26日には、尼崎市消防本部の指導により、防災センターで一般市民を対象とした「心肺蘇生・AED・気道異物除去法の講習会」を開催した。この時は60人もの参加があり、更に今後、計5回の講習会を計画している。（結成45周年記念大会委員長／中安千之）

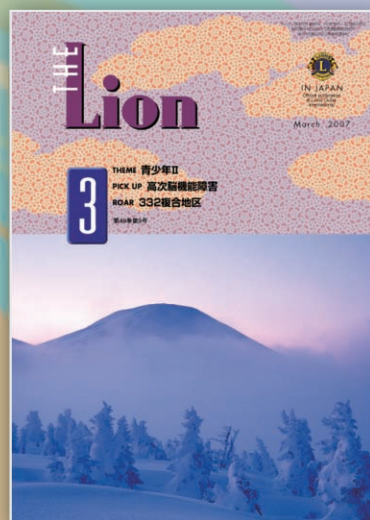
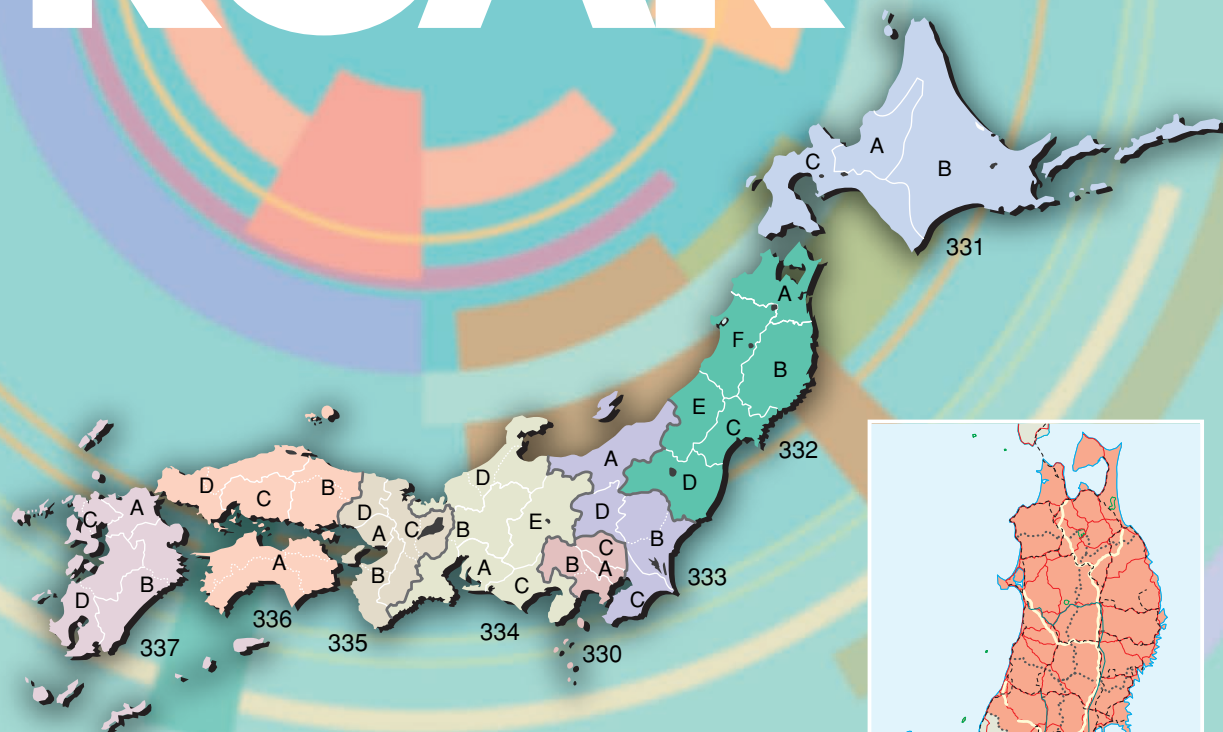
連絡先→06・6482・5500

（編）緊急時、AEDがあっても使い方が分からなければ危険を回避することは出来ません。講習会の参加人数からも、関心の高さがうかがえますね。

まるごと 332複合地区

Topics

1. 青森県八戸うみねこ
2. 岩手県釜石
3. 宮城県仙台コア
4. 福島県霊山
5. 山形県飯豊

ふるさと探訪　岩手県奥州（江刺）

●今月の表紙
青森・八甲田山「朝焼けの樹氷」

子どもと名勝の海岸を歩き 郷土と自然への愛情を育む

青森県・八戸うみねこライオンズクラブ

■情報提供／岩谷信宏（会長）

変化に富んだ種差海岸を歩く参加者たち

「どこかの天体から人が来て地球の美しさを教えてやらなければならないはめになったとき、一番にこの種差（たねさし）海岸に案内してやろうとおもったりした」

司馬遼太郎『街道をゆく』

青森県の南東部に位置し、太平洋に臨む八戸市。東北有数の水産都市・工業都市である。近年、観光にも力を入れていて、その目玉が名勝・種差海岸だ。変化に富んだ海岸で、白浜青松の砂浜や大小の岩礁、青々とした天然芝などが美しい景観を織りなす。春から秋にかけては、ハマナスなどの海浜植物が咲き誇る。

昨年2月に誕生した八戸うみねこライオンズクラブ（岩谷信宏会長／30人）は同6月25日、市内の小中学生を対象に、種差海岸を散策する「うみねこウォーク」を開催した。子どもとその保護者ら約200人が参加。初夏の海岸を楽しみながら歩いた。これは「自然との共生」を掲げる同クラブの結成記念事業の一環。子どもたちに種差海岸の美しさを知ってもらい、郷土を愛する心と自然を大切にする心を育てるのが目的だ。

当日は快晴で、青い空と紺碧の海、白い砂浜と緑の松林とのコントラストが鮮やか。参加者たちは、打ち寄せる波の音とウミネコの声が響く、砂浜や遊歩道約6キロのコースを2時間かけて散策。ボランティアのガイドが同行し、海浜植物の説明も行った。ライオンズ20人は、チェックポイントで参加者数を確認するなど裏方を務めた。

「気持ち良かった」「花が奇麗だった」と子どもたち。保護者にも「改めて良さが分かった」と好評だった。

2回目のうみねこウォークは、今年6月に開催される予定である。

空と海と白浜のコントラストが美しい

Topics トピックス2

ライオンズの夫人ら奉仕27年 老人ホームで出前喫茶など300回

岩手県・釜石ライオンズクラブ

■情報提供／鎌田博之（会長）

釜石ライオンズクラブのメンバーの夫人で組織する釜石ライオンズクラブ・ライオン・レディーの会（34人）では毎月1回、市内の老人ホームに出向いて、出前喫茶や介護用品の修繕などの奉仕を行っている。同会結成の１９８１年から続けているもので、今年で27年目。その回数は実に３００回に及ぶ。

1月17日、特別養護老人ホーム「あいぜんの里」で行われた奉仕には、ライオン・レディー（ＬＬ）10人が参加。外出する機会の少ない入所者たちに喫茶店の雰囲気を味わってもらおうと、ホールに「オープンカフェ」と名付けた喫茶コーナーを開設した。入所しているお年寄り約50人が来店し、お茶やケーキを味わいながら、ＬＬたちとの会話を楽しんだ。

飲み物は、コーヒーや紅茶、昆布茶などさまざま。人気はＬＬがドリップした本格コーヒーである。この日の最高齢のお客さんは、１０１歳のおばあちゃん。顔なじみのＬＬと世間話に花を咲かせていた。

お年寄りたちは、毎月このオープンカフェを楽しみにしていて、開店前からホールに集まってくる。同施設職員は「お年寄りたちにとって、外部の人との交流はいい刺激になる。普段見せない、いい笑顔が見られてうれしい」と話す。

「町で出会ったお年寄りにも、自然に接することが出来るようになった」「自分の親に出来なかった孝行が出来たような気分」などと参加したＬＬたち。

ＬＬの会の会長でもある釜石ライオンズクラブの鎌田博之会長は、「今後、釜石商業高校に結成された釜石レオクラブと、一緒に奉仕活動が出来ないか検討していきたい」と話している。

お茶をサービスするライオン・レディー

お茶と会話を楽しむ入所者たち

介護用品をつくろいながらくつろぐ

少年少女発明クラブを設立 ロボット作りで科学に親しむ

宮城県・仙台コア・ライオンズクラブ

■情報提供／秦静子（会員兼事務局員）

ロボットのプログラムを組む子どもたち

仙台コア・ライオンズクラブ（都築幹男会長／12人）は昨年4月、仙台市と㈳発明協会の支援を受けて「仙台市青葉少年少女発明クラブ」を設立、運営している。発明クラブには、市内の小学4年から6年生までの20人が所属。月1回のペースで、ロボット製作などに取り組んでいる。子どもたちに、「科学技術の集大成」とも言われるロボット製作を通して、科学の楽しさを味わってもらうのが目的だ。指導は、ライオンズの他、研究者や大学生らのボランティアが当たっている。

7月には、牛乳パックの中に発光ダイオード（LED）を入れた「電子七夕飾り」を作った。LEDの光る色やリズムは、子どもたちがパソコンを使って調整。ピンク、オレンジ、グリーンと色を変えながら瞬く七夕飾りは、仙台七夕まつりで飾られた。

その他、センサーを備え自律走行出来る二輪ロボットも製作。こちらも、子どもたちがパソコンでプログラムを組んで制御するタイプだ。結構、高度なロボットを作っているのである。今年は、ロボットコンテストも開催する予定。少年少女発明クラブは、全国に約200あるが、電子工作に特化したクラブは珍しいという。

「ばらばらの部品から組み立てて、うまく動いた時が最高にうれしい」と子どもたち。保護者らは、我が子が2時間以上、休憩も取らずに工作に熱中している姿に、「好きなことには、こんなに集中出来るのか……」と驚いた様子だ。

発明クラブ設立に尽力したライオン秦従道は、「これからは工作だけでなく、活動を通じた人格形成にも重点を置きたい」と話している。

電子部品をはんだ付けする参加者

Topics トピックス4

幻の伝統武術の教室を開催 健康づくりと町おこし目指す

福島県・霊山ライオンズクラブ

■情報提供／佐藤惣洋（教育委員長）

福島県北部の山あいにある伊達市霊山町。同町の霊山ライオンズクラブ（桑折勇会長／49人）は昨年9月から、町に古くから伝わる古武道「霊山竹生嶋流棒術」の教室を開いている。断絶しかけていた同棒術の保存伝承と市民の健康づくりが目的。地域振興につなげる狙いもある。教室は、月2回のペースで町内の体育館で開かれ、メンバーや家族、市民ら約70人が参加。講師の菅野富家師範から、棒術の礼儀作法や基本的な形などの指導を受けている。

子どもに稽古をつける菅野富家師範

竹生嶋流棒術は、江戸時代に旅の武芸者によって霊山に伝えられたとされる。刀剣を使うことが禁じられていた農民の間で、自衛の術として伝承されてきた。武器は、6尺2寸（約187センチ）の重い樫棒。狭い場所でも戦えるよう、垂直方向に回転させて打つ。その威力はすさまじく、真剣を折るという。死角からの攻撃が特徴で、34の形がある。

基本の形を練習する参加者たち

実はこの棒術、霊山町では絶えて久しかった。それが復活したのは、隣の福島市に住む菅野師範が「発祥の地に霊山竹生嶋流棒術を残したい」と話す新聞記事に、メンバーが目を留めたのがきっかけ。

腰を落として棒に体重をのせる

会場では、受講生たちが「エイ」「ヤー」という勇ましい掛け声を響かせて、棒を振るっている。「無駄のない動きに感心した」「運動不足の解消にちょうどいい」などと言って好評だ。菅野師範も「ふるさとに棒術を帰せてうれしい」と語る。

昨年12月には、ライオンズが中心となって「霊山竹生嶋流棒術健康会」を設立。教室を住民の自主運営化するなど、同棒術の普及振興に向け、体制を整えつつある。

ライオンズが保育園で「ウォーッ」子どもらの必死の豆まきで退散

山形県・飯豊ライオンズクラブ

■情報提供／後藤恵一郎（前会長）

山形県南部にある飯豊町。「第1回美しい日本の村景観コンテスト」で、最高賞の農林水産大臣賞に輝いた山村である。同町の飯豊ライオンズクラブ（松田忠一会長／20人）のメンバー10人は、節分前日の2月2日、町内の保育園など5カ所を訪問。子どもたちと豆まきを楽しんだ。節分の風習を子どもたちに伝えようと毎年行っているもので、今年で7回目だ。

メンバーたちは、鬼のお面やかつらをかぶって赤鬼、青鬼に変身。大きく出たおなかにヒョウ柄のパンツ姿は、かなりの迫力である。

幼稚園に向かった鬼たちは、「わり（悪い）子はいねがー」「ウォーッ」などと大声を出して、園児約50人の集まるホールに乱入。金棒を手にのし歩くと、子どもたちは一斉に逃げまどい、保育士の陰に隠れたり、怖さのあまり泣きだしたり。中には、果敢に立ち向かい、鬼にキックやパンチを浴びせる男の子もいた。

最初はたじろいだ園児たちだが、鬼に向かって「鬼は外、福は内」と豆を投げつけるうちに形勢逆転。鬼はたまらず外に逃げ出した。

5歳の男児は「最初は怖かったけど、豆を投げたら鬼が逃げた」と、楽しそうに話していた。また、園児たちは互いに豆を投げ合って、自分の中の弱虫や泣き虫の鬼も退治した。

鬼にふんした手塚敏行・社会奉仕委員長は、「子どもたちのいろんな反応が面白いねえ。孫みたいでかわいいねえ」と楽しそうである。

子どもたちの元気いっぱいの掛け声が、これから訪れる春を予感させるこのアクティビティ。クラブでは今後も継続していきたいとしている。

怖がりながら鬼に豆を投げる園児たち

豆まき後、園児たちの前に並ぶお疲れ気味の鬼たち

ふるさと探訪

岩手県・奥州市（旧江刺市）

世紀を超えて受け継がれてきた、みちのくの伝統工芸

■文／砂山幹博　写真／田中勝明

奥州平泉文化が息づく、伝統の和箪笥

奥州市江刺区（旧江刺市）の岩谷堂地区は、奥州藤原氏の初代清衡が平泉に移るまでの約30年間、居館を構えた場所である。後に絢爛たる文化を花咲かせる平泉の建設のため、木工、漆工、金工など高度な技術を持ったさまざまな職人が京都から招かれた。また、岩谷堂を含む岩手県は古くから良質の漆の産地、南部鉄器の鉄や、北上山系の良質な木材も比較的容易に入手出来るため、建物や家財調度品の製作が根付く下地は揃っていた。

地名を冠した木工家具「岩谷堂箪笥」が登場するのは18世紀末。時の岩谷堂城主が、米だけに頼る経済から脱皮しようと、家臣に木工家具の商品化を研究させたのが始まりと言われる。美しいケヤキの木目を生かして漆を塗ったその上に、手打ち手彫りで作られた優美な飾り金具を取り付けた格調の高い和箪笥は、今や岩手県のみならず我が国を代表する美術民芸家具である。１９８２年には、金具の技法、漆塗装など総合的な技術が認められ、経済産業大臣指定の伝統的工芸品に承認された。

箪笥としての形状は主に5種類。材料にはケヤキや桐など指定された種類の材木のみを無垢で、金具は鉄板を叩いて彫金した手打ち金具だけを使用する。こうした細かな条件をすべて満たしたものだけが、伝統的工芸品の岩谷堂箪笥ということになる。が、現実はどうも様子が異なる。

「一般に出回っている岩谷堂箪笥のほとんどが、無垢ではなくケヤキの木目を生かした合板で作られています。彫金も手打ちではなく鋳物が主流」と話すのは、及川孝一さん。岩谷堂箪笥を作り続けて40年の伝統工芸士である。

❶１００年はゆうに使える岩谷堂箪笥。木目の美しさは時間が経つ程に際立ってくるという
❷立体的な絵模様を浮かび上がらせるために、何十種類ものたがねを使って鉄板を叩く
❸彫金から木工、漆塗りまで一貫生産が可能な工房では、及川さんと2人の子息を含め4人の伝統工芸士が腕を振るう
取材協力／藤里木工（ライオン）及川孝一／江刺岩手ライオンズ（クラブ） TEL０１９７・３５・７７１１

伝統的工芸品は作りたいが、一棹でも最低１００万円以上はする高価な買い物をする人はなかなかいない。欲しいけれど、高くて買えないというニーズに応えるためにも、価格帯の低い普及品を作ることも及川さんの大事な仕事である。

「普及品でも最低、買ってくれた人の代以上はもつ箪笥を作りたい。いくら単価が安くても、私たち職人は手を抜けないんです」

岩谷堂箪笥のルーツはお江戸？

指物職人だった父親の影響で、中学校卒業後、単身東京へ出て江戸指物の職人に弟子入りした及川さん。修行を終え、故郷に戻ってからは木

❹江戸時代には、岩手県南部の船着き場として栄えた江刺の街には、今も当時の蔵が立ち並ぶ
❺飲食店でも現役で使用されている岩谷堂箪笥
❻昭和27年から営業をしている市内の呉服屋で使われている岩谷堂箪笥。娘に買ったが、アパートに入りきらなかったので引き取ったという

製建具を作って生計を立てていたが、この時、ケヤキの木目の美しさに目を奪われ岩谷堂箪笥を手がけるようになる。作り方を教えてくれる師匠がいないからすべてが我流。浅草で習得した江戸指物の技術を基本に、独学でいろいろな技術を身につけながらの箪笥作りであった。木材と木材を組み合わせる組手加工にしても、岩谷堂箪笥のそれは本来もっと単純なものであったという。堅牢である上に、外から見ても木目の連続性が失われない江戸指物の組手加工を取り入れたことで、岩谷堂箪笥のケヤキの木目はより美しく見えるようになった。また、彫金にしても大量生産に向いた鋳型を採用したのは及川さんの功績。「罪深いことをした」と本人は言うが、そのおかげで岩谷堂箪笥は、世界中の人々に知られるまでに普及することが出来た。

真新しい岩谷堂箪笥を買い求める人だけでなく、最近は使っている古い箪笥をよみがえらせたいという人が増えてきた。及川さんの工房には、制作途中の真新しい箪笥に混じって、修理のためにここにやってきた古ぼ

けた箪笥がいくつも置かれている。欠けた部分や歪んだ木材を補修して、漆を塗れば新品と見紛うほど奇麗に仕上がる。

「修理も私たちの大切な仕事。切らなければ千年は生きるケヤキの寿命を縮めてしまった分、何代も使って頂ける箪笥を作っていきたいと常に思っています」と、話す及川さんの表情からは、ケヤキへの尊敬の念があふれ出ていた。

卵麺

その名の通り卵を使って作った麺である。小麦粉をこねる水分の約8割が卵。そうめんに比べると、卵が入っている分少し固めの印象である。300年ほど前、遠く長崎から江刺に流れ着いた松屋十蔵という人が、オランダ人から伝授されたという鶏卵をふんだんに使った麺を「蘭麺」として売り出したのが始まりと言われている。「卵麺（らんめん）」と呼ばれるのは明治の頃で、名付け親はこの地に寄った板垣退助だという説もある。

卵を使用していることで鍋に入れても麺が伸びにくいため、卵麺は航空会社の機内食にも採用されている

つるつるとした歯触りの良さと、箸でつまんだ時のしなやかな弾力は卵の成せる業。夏が訪れると、江刺の人は不思議とこの卵麺の感触と風味を求めると聞いた。細物なので卵麺がよく出るのは夏。冬にはあまり食べられていなかったので、鍋用に卵の分量を少なくし、麺を太めに改良した「卵うどん」も登場。子どもたちにはこちらのほうが人気があるそうだ。現在は市内に卵麺の製麺所は2カ所のみ。通常は乾麺として売られているが、製麺所へ足を運べば「生卵麺」なる隠れ名物にお目にかかれることもある。

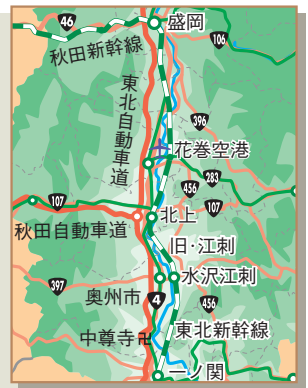
クラブ紹介

江刺岩手ライオンズクラブ（菊池孝男会長／36人）が活動するエリアは、米に牛肉、りんごの産地として知られる田園都市・奥州市の江刺区内。古代には豪族の館があり、北上川の舟運による物資の集散地として栄えた街で、奥州藤原文化を築いた清衡の父・経清の本拠地であった。水沢ライオンズクラブのスポンサーによって、1964年に設立され、以来この地でさまざまな奉仕活動に力を入れてきた。特に目立つのが、青少年育成事業の一環として行われる各種スポーツ事業。中でも市内の中学生を対象に、4月下旬に開催される野球大会は歴史が古く、今度で20回目を数える。2月に行われるバレーボール大会もこれまで5回開催されている。初めの頃は江刺区内にある4つの中学校を対象として開かれたが、今は範囲を広げて他の地域の中学校からも参加を募り、学外交流のきっかけ作りに貢献している。今年度からは新しくフットサル大会も開催している。

■江刺岩手ライオンズクラブから読者プレゼントがあります（65ページ）

奔流50年　回想の日本ライオンズ

●第3回

インド救ライ活動とスズラン給食

初の海外奉仕と政府を動かした奉仕

日本で初めてのライオンズクラブが生まれた頃は、誰もが「アクティビティとは何か?」と悩んだ。アクティビティ第1号は東京ライオンズクラブの赤い羽根への募金（1万円）だった。第2号は、神戸ホスト・ライオンズクラブの肢体不自由児余島夏期キャンプへの3万円寄金であった。

神戸ホスト・ライオンズクラブの結成間もない頃、神戸港にインドネシア遭難漁民が来ているという知らせが入った。難破、漂流し、外国汽船に救われた漁師たちだった。知らせを聞いた神戸ホスト・ライオンズクラブは、直ちに援助を決め、真紅のマワシを贈ることにし、マワシを抱えたメンバーが、外国船に急行、タラップを上った。行動を通してアクティビティを模索する草創期のライオンズの姿が浮かび上がってくる。

それでも、誕生から8年目の1959年には1245件のアクティビティを記録。当時、日本はまだ1地区だった。その59年、第5回地区大会で、インドの救ライ事業に挺身する一医師の支援が決まる。全国120クラブが結束し、62万円の資金が集められた。62年には広く国民運動とするためアジア救ライ協会が発足。「インドのハンセン氏病を救え!」という声は全国に広がる。翌年、インド政府との間で救ライに関する日印協定書が交わされ、診療と研究、職業訓練の大綱が決まった。67年には、第13回大会で3年間の「インド救ライ拠金」が決議される。インドのアグラにハンセン氏病の治療棟が完成したのは67年1月、ライオンズの行動が、日印親善の大きな成果を生む結果となった。

インド救ライに殉じた熊本ライオンズクラブの宮崎松記博士

摘んだスズランを手にする玉山村の子どもたち

ライオンズの奉仕活動が政府を動かしたこともある。1965年のことだった。盛岡ライオンズクラブのメンバーが、岩手県北上高地の玉山村の給食事情を知ってクラブの例会に図った。村は盛岡市から53キロ、バスで2時間半、更に徒歩で2時間余りの山間部にあった。冷害の年には、村の小中学校の生徒の半数が弁当を持たないで登校していた。盛岡ライオンズクラブは金や物では問題を解決出来ない、都会の人々に実状を知ってもらおうと考えた。学校の近くにはスズランの咲く野原が広がっている。子どもたちにスズランを摘んでもらい、それを東京に送って僻地の実情を知らせ、寄金を募ろうということになった。

行動は素早かった。給食設備を贈ると共に、東京・横浜地区のクラブと連絡を取り、子どもたちの摘んだスズランを、地元の輸送業者など善意の人々の協力で、東京に送った。東京の26クラブがそのスズランを買い取り、たちどころに112万円の資金を集めた。その資金が、給食施設の拡充に役立てられた。この奉仕活動が、新聞で大きく取り上げられ、ついに時の首相・佐藤栄作を動かす。首相の指示で、全国の辺地校の給食費の全額国庫負担が実現することとなった。1クラブの行動が国の施策を動かしたのだった。

（原武夫）

功労者に贈る楯のご案内

三役用

（ご注文はなるべくお早めに）

G-66
サイズ：38cm×30cm×1.5cm
単価：$125.14（¥14,892）

G-230
サイズ：32cm×26cm×1.3cm
単価：$118.60（¥14,113）

G-455
サイズ：49cm×14.5cm×4cm
単価：$159.84（¥19,021）

G-579
サイズ：23cm×18cm×1.9cm
単価：$132.85（¥15,809）

※各楯（G-579,G-455,G-230）のデザインは
会長用…槌　幹事用…羽　会計用…鍵

一般用

G-137
サイズ：30cm×38cm×1.5cm
単価：$136.77（¥16,276）

G-702
サイズ：23cm×18cm×1.5cm
単価：$44.97（¥5,351）

TR-126
サイズ：33cm×27cm×2cm
単価：$101.96（¥12,133）

お知らせ

国際平和ポスターコンテストキットの注文は、国際協会本部からの『極力、日本事務所を通して注文する様に』との意向により、日本事務所に在庫しております。ご注文の際は、直接、国際協会本部には注文せず、当事務所へ注文頂ければ、従来より早くお届けする事が出来ます。

G-1142
サイズ：20cm×15cm×1.7cm
単価：$54.73（¥6,513）

TR-269
サイズ：20cm×15cm×1.7cm
単価：$38.65（¥4,599）

単価は2007年1月のものです（1ドル119.00円）。ご注文はクラブ事務局を通じてお願いいたします。

①ご希望に応じて、文字の彫刻をいたします。原稿を添えてご注文ください。
②ご注文をいただき彫刻して1カ月以内にはお届けする態勢をとっています。
③これ以外にも、国際協会より取り寄せ可能な楯が多数ありますので、詳細についてはお問い合わせください。

ライオンズクラブ国際協会日本事務所（JR五反田駅下車徒歩7分）
〒141-0031東京都品川区西五反田7-22-17T.O.Cビル6階16号　TEL03(3494)2931　FAX03(3494)2933

私はこう考える 論点

ライオンズ用語や慣習の見直しを

伊東　諒
（千葉県・旭ライオンズクラブ）

昨年10月、リジョン内合同で開催された例会運営の勉強会で基調講演を依頼された。本来の目的は「楽しい例会作り」で、いくつか実例を参考に挙げて話し始めたが、次第に本質論に踏み込んでいった。

「あなたのクラブは、地元の人たちからどのように見られていますか？」。この問い掛けに、出席者たちは真剣に耳を傾けてくれた。文言が挑発的だったのか、受け止める側の表情はさまざまだった。会員の減少に悩み、クラブの発展どころか維持にも自信を無くしているような深刻な現状を指摘されたと感じたのかもしれない。

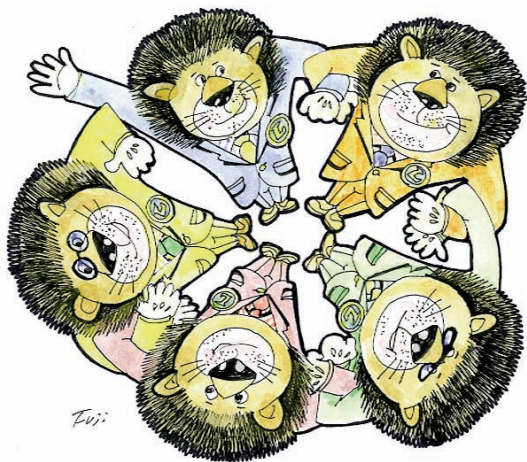
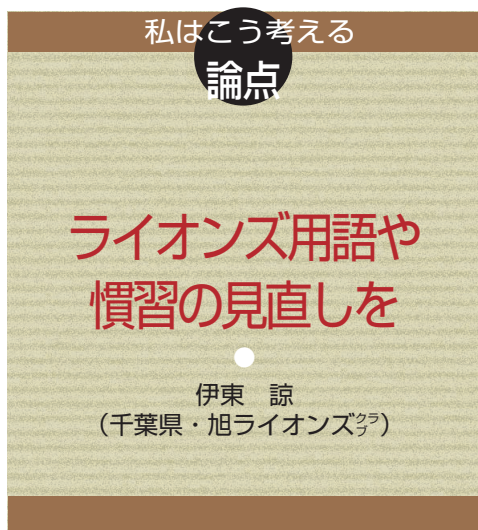
私としては、ライオンズが地域の人たちから自分たちとは違う人種の集まりだと思われてはいないだろうか？　と問い掛けたつもりだった。今年度リジョン・チェアパーソンとして各クラブの例会を訪問し、見聞きする中で生まれた問いでもある。

アメリカで生まれ、日本に渡って半世紀以上が過ぎ、そろそろ日本人のDNAを組み込んだライオンズクラブを考えてもよいのではないかと考えるのだ。

些細な例を二つ挙げてみたい。私たちはお互いを呼び合う際に「ライオン」の呼称を付ける。真面目な顔で「ライオン伊東」などと呼び合う姿を一般の人々は奇異に感じてはいないだろうか。ある種の違和感を持たれているだろうことは、容易に想像出来る。

また多くのクラブでは、例会の最後に全員が輪になって手をつなぎ「また会う日まで」を合唱する。握手の習慣のない日本では馴染みがなく、例会に出席した部外者に「いい年をした人たちが……」と思われても仕方がない。

だからといって私は、これらの慣習をすべて否定しようというのではない。年次大会などライオンズの公式行事で「ライオン」の呼称を使用することは、伝統的、儀式的表現として大事にすべきだと思う。また手をつなぐことも然り。酒席を伴う懇親例会などの締めとしては、最良の別れ方であろう。

今まで意識せずに続けてきたライオンズ用語の使い方や慣習を見直し、その場に相応しい使い分けをしてはどうだろうか。

イラスト／藤英毅

原稿募集　＊今回取り上げたテーマ、提言に関する読者の皆さんのご意見をお寄せください。
＊本欄では右記テーマで問題提起、提言を募集しています。1,000〜1,200字の原稿にまとめてお送りください。→送付先は62ページ掲載。

募集テーマ
- 例会プログラム
- 周年式典
- 単年度制
- 年次大会
- 青少年交換（YE）
- LCIF
- 清掃奉仕
- 資金獲得事業
- 姉妹提携
- その他ライオンズ関連なら何でも

ワンダフルエイジング

須山　秀一（東京セントポール）

私は4歳になりました。

と言っても、実年齢は昭和24年生まれの57歳です。なぜ4歳かと言うと、こんな体験をしたからです。

それは42歳の夏――。北海道で接待ゴルフのプレイ中に手足のしびれがひどくなり、胸も痛くなりました。帰京後、医者に診察してもらいましたが、なんら異常は見られず、しばらく外食を控え、疲労をためないようにして様子を見ていました。

私は元来丈夫で、学生時代はバスケットボールやラグビーをやり、体力には自信がありました。病気とは無縁と決めつけ、少々の熱・咳・風邪なども一晩寝れば治ると自負していた程です。自営業ということもあって、健康診断も全く受けず、疲れは年の変わり目だし、男の厄年と思っていました。

が、数日後、夜寝ている時に突然息が出来なくなって飛び起き、手足のしびれが一層激しくなりました。急きょ、東京女子医大の泌尿器科に検査入院したところ、腎不全と診断されました。先生からは「完治はなく、一生病気と向き合っていかなければならない」と宣告され、目の前が真っ暗になりました。

闘病生活はまず、食事療法から始まりました。塩分、タンパク質、カリウムを制限しながらエネルギーを上げていくという、かなりきつい食生活でした。妻も私のために、別メニューの食事を2年間、苦労しながら作ってくれました。しかし数値が悪化して、ついに透析となりました。透析（腹膜透析）は1日4回（朝・昼・夕・就寝中）自分で管理し、毎日続けました。

透析していても、常に前向きに考えるよう心掛け、ゴルフも健康管理（リフレッシュとストレス発散）のためにプレイし、仕事も旅行も、それなりにこなしてきました。透析液をハワイに手配してもらい、2000年のホノルル国際大会に参加したことは、忘れられない思い出です。

しかし、8年が経った頃、腹膜が硬化して透析効果が失われました。いよいよ血液透析

に移行かという時、病院で知り合った腎不全の患者さんから、姉から腎臓移植を受けたという話を聞きました。

すると妻が、「私たちも検査を受けてみない？」と言い出し、私はドキッとしました。

妻は10年前、胃がんで胃の3分の2を切除していました。それに、腹膜透析のつど2㍑の透析液を用意するため、当然のごとく妻にかなりの負担をかけてきたのです。思っても見ないことでした。

しかし結局、妻の強い意志で検査を受けることになり、3カ月もの厳密な検査の結果、

イラスト／小川和政

妻と私の腎臓の適合が得られました。その後、私も妻から腎臓をもらうことを決断。9時間に及ぶ生体腎移植手術は成功し、昨年の9月24日で、満4年を迎えることが出来ました。

最近、臓器売買のニュースが流れましたが、命をお金で買うような行為は、犯罪につながる恐れがあります。人道的・倫理的にもいろいろな問題が生じると思います。絶対に許してはなりません。

私の生活は移植後、まるで別世界のようです。免疫抑制剤を常用し、食事にも気をつけていますが、考えること・仕事の意欲・余暇の過ごし方はずっと前向きになりました。

ライオンズの共通の目的である骨髄移植の問題と共に、臓器移植の問題も考えて良いのではないでしょうか。日本での移植の取り組みは、まだまだ遅れていると思います。

例えば、幼児が生まれながらの障害を持っていて、移植しか治療方法がない場合、日本ではその医療が受けられず、海外に渡るしかないなど、矛盾、問題点を感じます。

一人の力では出来ることは限られますが、私は、自分自身の体験談を多くの人に伝えていきたいと思っています。ライオンズの皆さんの奉仕の精神からも、臓器移植法改正に意見を反映していけたらと念じております。

これからも私たち夫婦は喜びも、悲しみも二人で共にし、一日一日を大切に充実した日々を過ごしていきたいと思います。

（生花販売業・57歳）

その時ボランティアは考えた

永岡　由紀夫（島根県・浜田マリン・家族）

昨年11月23日の勤労感謝の日に、地元の収穫祭で、知的障害者厚生施設のイベントが行われました。イベントには、ライオンズクラブを始め、社会福祉協議会に所属しているボランティア団体が参加していました。

私も応援で毎年参加しているのですが、たまたま、家にいる父にたこ焼きを買って行ってあげようと店の前に並んだ時、その事件は起きました。

店先で、知的障害を持つ男の子がなにやら財布を開いて店員（ボランティアの方）に見せています。お母さんに入れてもらったお金でたこ焼きを一人前頼んでいるようです。ところが、10円足りないらしく、店員がそのことを説明していました。でも、男の子はなかなか理解出来ません。

そうです、この子にしてみれば、大好きな

お母さんが、財布にお金を入れてくれたのに、お金が足りないなんて考えられないのでしょう。後ろに並んでいるお客さんは、けげんそうにその様子を見守り、男の子は今にも泣き出しそうです。
　そんな状況に遭遇したら、あなただったらどうされますか？
　店は、施設とボランティア団体で協同運営しています。ですから、10円ぐらいサービスしても問題はないでしょう。一般のお店でもそうではないでしょうか。
　ここまで書けば、勘の良い方は気付かれたことでしょう。そう、店員は、時間を掛けて丁寧に男の子に説明していました。列の後ろの方には大勢の人が並んでいるにもかかわらずです。そして男の子は悲しそうではありましたが、よく話を聞いて納得したのでしょう。お母さんを捜しに列を離れて行きました。
　お金の価値を知ることは、知的障害を持つ子どもが社会に出て行くために必要な、最低限の知識の一つであるという話を聞いたことがあります。いいよと言うことは簡単ですが、それではきっと、この子のためにならないでしょう。
　少しして、その男の子が戻ってきました。改めてお母さんにもらったお金を握り締めて――。店員もすぐに気付いて男の子を店頭に呼びました。そして、男の子は満面の笑顔でたこ焼きを受け取りました。
　この場合、処置の仕方はいくらでもあったでしょうが、どれが正しいかは分かりません。ボランティア精神を持ってなされることなら、きっとどれもが正しいと思います。私は今回のことで、相手のことを考える心の大切さを感じました。そして私は、男の子の輝くばかりの笑顔を忘れることはないでしょう。

（設計業・50歳）

インド旅行

菊池　良和（宮崎県・延岡五ケ瀬）

インド旅行が気になりだしたのは、次女の「インドって、まか不思議？　なんとなく怖い感じかな。気をつけて」という一言からだった。スズキ自動車の招待でインドへ行くことになった私は、これで一気に不安モードへ。
　そこへ追い打ちをかけるように、「水が合わないので必ずおなかを壊す」「食べ物がない」「シャワーの後も口をうがい薬ですすぐこと」「歯磨きは持ち込みのミネラルウォーターを使う」「トイレが汚い」「スズキが大量の紙おむつを旅行先に送ったらしい」など、情報が飛び交って準備に戸惑う。
　おかげでトランクには2㍑の天然水が3本、５００ccのお茶10本、野菜ジュース10本、非常用おかゆ9食、インスタント食品、パン、お菓子、カロリーメイト、カンパン等の食料品、下痢止めなどの薬類、ウェットティッシュなど……。嫁さんに「これキャンプ？」とからかわれながら、大荷物を詰め込んだ。
　そして、とどめが、前泊したセントレアホテルで配布された注意書き。「赤痢、天然痘、腸チフス、マラリア、エイズ等30程の病気にご注意」とある。もう開き直るしかない。
　チャーター便のため、7時間半のフライトにもかかわらず機中は快適だった。デリーのホテルも、30階建て5つ星と立派なもの。それでも水は飲めないの？　と疑問に思ったが、やはり口にしないようにとのことだった。
　翌日、今回の目的であるマルチスズキ社工場を訪問した。小型乗用車においてインドで80％近いシェアを占めていたスズキも、今は50％台まで落ちた。5年程前からトヨタ、ホンダ、韓国のヒュンダイなど幾つかのメーカーが現地生産を開始し、人口10億7千万のインドで熾烈な販売競争を展開している。
　自動車の生産工場は、どこの国も例外なく

清潔で、ゴミ一つ無い。インドの工場も非常に奇麗で、町中とは大違いだった。賃金は日本の約十分の一。それでもこちらではかなり高い。日本の工場と変わらない生産ラインを見学すると、大きくヒンズー語で書かれた標語の横に、ローマ字で5S（整理、整頓、清潔、清掃、しつけ）が掲げてあり、すべてが日本式に指導されている。インドの人は大変勤勉で、23年間の紆余曲折を経てのことだろうが、文化や組合も問題ないようだ。

6年連続5％以上の経済成長を続けているこの国の道路事情はどうなのか。そんなに狭くもないが、広くもない、片側3車線程の道に我先に車の頭を突っ込むので4列になり、車体すれすれに進む。よく見ると、左のミラーはほとんどの車が折り畳んでいるか外してある。聞けば、ミラーはルームミラー一つで十分、後は邪魔なのだそうだ。

3日目の朝食からホテルのバイキング利用を止め、自前の食料で済ませた。品数も多く見た目は奇麗だが、食器を洗う水が疑わしかったからだ。

この日は南へ200キロ、350年前の首都アグラへ向った。高速道路は無く、市街地を抜け片側2車線の幹線道路を走るが、アグラまでの車窓が面白い。行き交う車はほとんど満席で、トラクターのボンネット部分まで人がまたいで乗り、並走しているトラックの荷台を見ると、大人はのんびり寝転び、子どもは飛び跳ね楽しくはしゃいでいる。

点在する街は大変な混雑で、その中を掻き分けるようにバスは進み、約5時間かけ、ようやくアグラに到着した。

ここは繁栄を極めたムガール帝国の首都だった街で、世界文化遺産でもあるアグラ城塞が残されている。全長25キロに及ぶ城壁の中に、宮殿、モスク（イスラム教の礼拝所）、バザール（イスラム圏の街頭市場）などがあり、建築物としての価値の高さや、大理石による建造物の美術的価値により、大勢の観光客を引き付けている。また、アグラには大粒の真珠のようなタージマハル（インドで最も人気のある世界遺産）もある。

市街から少し離れると、路線横にはたくさんのテント生活者がいる。私たちのバスが止まると、10歳くらいの子が乳飲み子を抱き、開かない窓に向かって物乞いをする。「貧富の差」の激しさをまざまざと感じた。

そんな中、私たちが宿泊したホテルは高さ3メートル程の塀に囲まれ、とても明るく、塀の外とはまるで別世界。申し訳ないが私はホッとした。食事は少し日本人向けの工夫がしてあり問題はなかったが、それでも、3日目くらいから下痢の人が出て来た。菌が違うからか、日本の下痢止めや胃腸薬は効かないようで、持ってきた大量の薬も役に立たない。約3分の1の人が下痢をする中、私は幸い大丈夫だった。腹八分というところを、腹五分にしていたことが良かったようだ。

帰りの税関で、添乗員が、数個のダンボールを機内荷物として預けていた。中身はオムツだそうで、やはり、ここまでの準備がしてあったのかと驚く。

インドでは35％の人が、読み書きが出来な

いと聞いている。しかし、コンピューターや数学においては世界をリードしている。数日間では、なかなか理解することは出来なかったが、世界の注目を集めているこの国が、10年後どれほど変わっているだろうかと、感慨深く帰路についた。

（自動車販売業・58歳）

芸の生かし方

村上 敏彦（熊本県・荒尾）

小生はライオンズ歴3年の新米会員です。入会して最初に仰せつかったのが、テール・ツイスターでした。何も分からないままのスタートでしたが、役職を頂いたおかげで、他クラブの例会訪問、チャーター・ナイト、年次大会などに参加し、ライオンズがどのようなものかが、少しずつ分かってきました。

が、例会出席率を上げるため、企業のトップ（会員）60人をまとめるのはなかなか難しいもの。そこで私は、特技であるマジックを生かせないかと考え、例会ごとに「マジックの種明かし」を披露することにしました。マジック界には、①タネ明かしをしない、②同じ演技を繰り返さない、③演技の前に内容を明かさない、と三つのルールがあるのですが、そのルールを破ってです！

私がマジックに興味を持ったのは25年前。友人と2人で九州のプロ奇術師に入門しました。友人は手先が器用で、講習を1回受けただけですぐ覚える程でした。

そして数カ月後、大牟田吉野園という老人ホームを慰問。ところが、友人は練習をしていなかったのか、初舞台で失敗。それっきり辞めてしまいました。不器用で、すぐに辞めると思っていた小生の方が、いまだに続いているという皮肉な結果となりました。

マジックを始めて良かったことが、二つあります。一つは、人前で話すのが（特に女性の前では）苦手でなくなったこと。独身時代から始めていたら、今のカミさんと違った人と出会っていたかも……。

もう一つは、ゴルフがうまくなったことです。初めてクラブを握ったのは35年前。初ラウンドのスコアは１３０でした。実は今でも１００前後なのですが、時々、まぐれで70台で回ると、友人から「マジックを使ったのだろう」と言われるのがしゃくの種。

マジックを始める前は、1番ホールのティーグラウンドに立つと、OBしてみんなに笑われないだろうかと肩に力が入り、足が震え、仕方なくフルショットすると、キャディが悲鳴に似た甲高い声を上げ、その日一日がクタクタでした。ところがマジックを始めて舞台度胸がついたのか、あがることも無くなりました。

また最近では、町の教育委員会から手品の講師依頼があり、引きこもりの児童がマジックのおかげで治ったと感謝され、とても感激しました。

人の役に立つ喜びを経験し、私の中にも奉仕の精神が少しずつ芽生え始めました。自分に出来る奉仕は限られていますが、これからもライオンズでがんばっていきたいと思っています。

（管工事業・63歳）

俳壇

■選者　森　澄雄

【入選】▼

朝日差す干大根の白さかな
（千葉県・大栄）野平婦基子

初雪に黄金眩（まぶ）しき金閣寺
（千葉県・船橋シニア）小嶋　廣次

煩悩も鐘に送られ去年今年
（埼玉県・浦和サザン）三浦　弘行

干蒲団にくるまり母の寝息かな
（愛知県・名古屋樟）髙橋　忠男

帰り花芭蕉も越えし峠かな
（三重県・伊賀上野）豊岡はつ子

神妙に除夜の鐘聞く帰郷の子
（静岡県・三ケ日）足立　貞男

初凪や目瞑りおはす潮仏
（福井県・敦賀）山本　麓潮

木の実降る少年相撲の子等の背に
（兵庫県・伊丹有岡）前川志希子

どんぐりの飛び込み来たる絵具箱
（兵庫県・神戸シニア）中村麦芽子

背ナに浮く柚子に長湯をしてをりぬ
（大阪夕陽丘）角野桂治郎

見はるかす金剛葛城冬かすみ
（大阪府・堺浜寺）宮部志都代

隙間風百年を経し庫裡に住み
（大阪府・堺浜寺）萩野　克美

初雀並ぶ電線日章旗
（佐賀県・唐津レインボー）古川　工

青き目の青年除夜の鐘を撞く
（長崎ベーシック）石橋　恵代

賀状だけの縁（えにし）になりし旧き友
（長崎北）平山　兼則

【特選】

寒天の昴（すばる）を見上げ露天風呂
（大阪プラム）竹田　房子

（評）寒昴は六連星ともいい、冬、オリオンより更に東南の天頂にきらめく散開星団プレアデス。和名の昴は一つにまとまる意の「統（す）ばる」からで、古くから農漁の季節を知る目印に使われた。露天風呂につかりながら寒天の昴を見上げている。

御影堂時雨て昏れを速めたる
（和歌山県・伊都高野山）慈幸　千寿

（評）弘法大師空海の高野山（金剛峯寺）は高野山真言宗の総本山。高野山内西部の壇上伽藍は奥院とともに高野山の中心をなし、金堂をはじめ根本大塔・御影堂・孔雀堂・三昧堂・不動堂（国宝）などが建ち並ぶ。御影堂に時雨が降って昏れを速めている。

（投稿要領→62ページ）

歌壇

■選者　春日真木子

【特選】

ネクタイを締める事なき日が続き鏡を見ずに今日もすぎゆく

（兵庫県・山崎）竹田　長司

（評）男性にとって、いちばんのお洒落はネクタイであろう。職場で、きちんとネクタイを締めた姿は、凛々しいものである。リタイアすると鏡に向かってネクタイを結ぶこともなくなる。さらに年数が経つと、いよいよネクタイを締めて出る正式の場も少なくなる。「鏡を見ずに」と下句にあり、男性も鏡に向かわぬ寂しさがあるのか、と気付かされた。現代は、夏はクールビズ、ラフな格好で仕事をするようになった。掲出歌は、作者の世代ならではの感慨の一首である。今号は、加藤、宇井両氏の作品にも注目した。

（投稿要領→62ページ）

【入選】▼

戦場の翳りのように舞い来たる触れて消えゆく一月の雪

（青森まほろば）加藤　捷三

訳すれば猪武者か夢多きわれの分身ドンキホーテは

（青森県・五戸）吉田　晶二

拡幅の成りし四辻（よつつじ）消え失せし駄菓子屋　床屋　酒屋に銀行

（青森県・弘前）岩間　甫

軒下に切干大根吊されてへへへのへの字に霰跳ね打つ

（新潟八千代）荻島　俊雄

三箇日はしゃぎし孫等のソプラノが耳朶に残れる四日の朝なり

（千葉県・房総勝浦）君塚　一雄

海原を焦がして沈む館山湾夕日さながら火球のごとし

（千葉県・館山中央）荻野　貴子

外孫の生れ（あ）し電話を受けし妻　何につけても笑ひ声たつ

（千葉県・東庄）宇井　秀雄

人は死後何に生まれて吾と逢うふるさとの風まつわりて来る

（石川県・羽咋）竹津　弘子

この電話使われてませんのコール来て馴染み客なる老の身案ず

（長野県・塩尻）黒須　俊男

ストーブに湯の滾る音背後より何かせかする如くに聞こゆ

（大分県・中津沖代）松本　達雄

柳壇

■選者　大木俊秀

【特選】

拝まれる写真笑顔で撮っておく　（青森県・五所川原）坂本　憲昭

（評）拝まれる写真とは、実に巧みに表現してくださいました。私の句に「夫婦して遺影写真を互選する」がありますが、この世の方々から焼香を受ける写真は、やはり笑顔に如くはなしということでしょうか。これが遺影と決めて十年生きている、と行きたいものですね。

きずな切れ遠景となる里の町　（新潟県・見附）宇之津滋朗

（評）故郷との最も太い絆と言えば、先ず父と母。そして、祖父祖母、兄弟姉妹、伯父叔母、いとこと血縁の間柄。さらには恩師、竹馬の友などに広がります。年を経てそれらの絆が一本二本と徐々に絶たれると、自然に帰省の足も遠のき、里の町は遠景となっていく。しみじみと故郷を想う共感の一句です。

（投稿要領→62ページ）

【入選】▼

あれからを生き雑兵の尊厳死　（青森県・八戸中央）大久保健峰

祝われる度にしぼんでゆく余生　（青森県・弘前中央）高橋　敬

年追って減る年金を抱いて生き　（岩手県・藤沢岩手）及川　平一

道ばたに夢のかけらか外れ券　（岩手県・水沢中央）石川　涼呼

お賽銭ケチッたからか凶みくじ　（岩手県・水沢中央）佐藤　恒一

無為に過ぎ電波時計を泣かせるな　（新潟県・五泉）佐藤　隆吾

病名を医者は判事のように言う　（千葉県・房総勝浦）君塚　一雄

腹掛けで吹雪ものかは里地蔵　（千葉県・船橋シニア）小嶋　廣次

散髪に毎月通い洒落る古希　（千葉県・多古）髙岡　信喜

チョイ悪のつもりへピエロめいてくる　（福井県・敦賀みなと）田中　信幸

年金がそば打ち免許取りました　（鳥取県・倉吉打吹）福井　耕児

冗談が過ぎて始末にうろたえる　（鳥取県・倉吉打吹）森脇　涼生

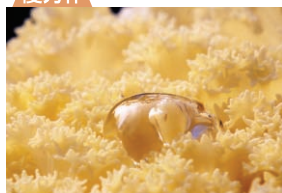
九段坂無事に素通りした命　（宮崎橘）井上　忠一

二番手を走る男にある野心　（宮崎橘）黒木せつよ

人生の大詰めやはり金が要る　（長崎県・佐世保西）神谷　治雄

選：河相正名（日本写真家協会会員）

作治隆幸
大阪府岸和田シニア
［化粧］

●選評
　京の花街、舞妓さんの艶姿（あですがた）。舞妓特有のお化粧で、襟足にほのかな色気を漂わせている。全員後ろ姿ではあるが、前方の格子戸がお勤めの緊張感をうまく伝えている。白襟のお姉さんが赤襟二人を堂々と従え、三人の関係を見事な構図でとらえている。左の少し見える横顔の目線から先輩を頼っているような初々しさが感じられる。

菊野善之助　愛媛県松山ホスト
［はぼたん］

上野春夫　広島県三原
［新居浜の太鼓祭り］

山野智要之亮　広島あさひ
［イリュージョン］

藤島隆年　広島ロイヤル
［イブキボウフウ］

入選

横内孟　山梨県南アルプス［秋色の湖］
木村文丸　青森県弘前［秋惜しむ］
菅谷遥輝　千葉県小見川［僕の撮ったフラメンコショー］
菅谷寛　千葉県小見川［兄弟］
畔柳東一　愛知県岡崎竜城［川の中］
山田武夫　愛知県名古屋樟［飲酒運転厳禁「日本茶飲んで」］
安藤正一　愛知県豊田［役目おえて］
梅田尊　愛知県豊田［水琴窟の秋］
石川隆之　愛知県豊田［晩秋の雨上がり］
成瀬正幸　愛知県豊田［歴史ある町］
岩佐清　岐阜県高山［雪降り］
松下正治　大阪梅田新道［紅葉］
高山勇　和歌山県富田川［波濤］
桐山泰治　京都西［真っ赤な紅葉と水路閣］
吉野耕司　京都府宮津［日本海寒ぶり漁ー出荷へー］
青木泰秀　広島県向島［龍ノ国尾道］
植田賢治　広島あさひ［厳島の夜］

全作品は国際協会公式ウェブサイトでご覧頂けます。　http://www.lionsclubs.org/JA/TheLion/MBS/index.html

LIONS GALLERY

「フィレンツェ」油絵（72.7×60.6センチ）

絵を描くのは学生の頃から好きで、熊本新聞社主催の作品展で何度か受賞したこともありました。

その後は忙しい日々に追われて遠ざかっていましたが、5年前に画家の武田茂氏の教室に通う機会に恵まれ描き始めました。毎年1回メンバー約30人で作品展を開いています。仲間の皆さんの上達ぶりは大変なもので、私は仕事の合間にやっているため、ついていくのが精いっぱいです。しかし絵を描いている時は、他のことを忘れ没頭します。良い趣味が見つけられたなあ、と実感しております。

これからも楽しくがんばって、描いていきたいと思います。

（いけだ　まさゆき・60歳）

池田雅幸
埼玉県・朝霞ライオンズクラブ
シルク印刷業

読者から

▼本誌へのご意見・ご感想をお寄せください。 編集部

キーワードは「行動力」

●会員増強・維持の特集（1月号THEME「クラブ成功例から増強運動の極意を探る」）、大変参考になった。会員一人ひとりの意識改革を目標に、今年はぬるま湯の気持ちを脱皮してアクションを起こして行きたい。ちなみに私は、大阪府・金剛ライオンズクラブの「ささやき作戦」に共感。幸いクラブも近いので、一度何人かで例会訪問し、感化を受けたいと思う。

大阪府・貝塚●竹田昌弘

前向きな奉仕活動に感銘

●1月号こころのチキンスープ「元気をもらった」を拝読させて頂き、会員減少にもかかわらずあきらめない、熊本県・有明ライオンズクラブの前向きな奉仕活動に感銘を受けました。会員が少ないと、かえってクラブの団結力が強まるのかもしれませんね。

香川県・坂出白峰●山田邦彦

EM菌だんごの効果を期待

●環境保全委員会に所属しているので、1月号に掲載されていた、鹿児島さつまライオンズクラブの「EM菌だんごを作り河川へ（クラブリポート）」を参考にさせて頂きました。効果が現れ、甲突川の水が少しでも奇麗になると良いですね。

広島県・福山シニア●岡本佳明

夜間パトロールを応援

●埼玉県・ところざわライオンズクラブの活動（1月号トピックス「夜間パトロールの実施で防犯・健康・親睦の一石三鳥」）に感動しました。私も子どもが中学生の頃、補導部長として同じような奉仕活動をしたことを思い出しました。最近は犯罪が多発していますから、地域住民も積極的に警察に協力するのはとても良いことだと感じました。

岡山南・家族●猿川芳子

ちゃんこ鍋の奥深さ

●相撲界のメーンディッシュ「ちゃんこ鍋」。そのちゃんこ鍋料理の裏方の苦労を知り、とても奥深さを感じた（1月号ふるさと探訪

ライオン誌投稿要領

▼応募資格に特に記載のない場合は、ライオン、ライオネス、レオ及びその家族。
▼締切の記入のないものは随時受付。誌面の都合で編集したり、掲載出来ない場合があります。原則として原稿の返却はいたしません。
▼Eメールでの写真投稿は長辺1,600ピクセル程度のJPEG最高画質で。
▼いずれも住所、氏名、クラブ名を明記。

■こころのチキンスープ･ライオンズ編28～29ﾍﾟｰ
●ライオンズにまつわる感動的なエピソードの概略、あるいは1,200～2,000字程度の原稿。ストーリーは本誌ライターが書き下ろします。

■サービス･アクティビティ30～31ﾍﾟｰ
●活動日、場所、100文字程度の説明文を付記。写真はプリント（サービス判くらい）及びデータで。ServannAの「ライオン誌投稿」欄もご利用頂けます。

■クラブ・リポート32～36ﾍﾟｰ
●アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に800字程度で。関連写真があれば添付。

■論点～私はこう考える51ﾍﾟｰ
●以下のテーマについてご意見や問題提起、疑問などを1,000～1,200字程度の原稿にまとめて。
「例会プログラム」「周年式典」「単年度制」「姉妹提携」「LCIF」「年次大会」「資金獲得事業」※その他ライオンズクラブに関する内容であれば可

■獅子吼52～56ﾍﾟｰ
●会員及びその家族によるエッセー、提言など。1,600字程度。職種、年齢を明記。
●題字はハガキ程度の大きさ。

■俳壇・歌壇・柳壇57～59ﾍﾟｰ
●一人ハガキ1枚に3句／首まで。締切：毎月15日。

■MY BEST SHOT60ﾍﾟｰ
●会員及びその家族でアマチュア。
●応募作品：題材は自由。プリント（サービス判～2L判ぐらい）、スライド（35ﾐﾘ以上）、またはデータ（JPEG最高画質）。1人5点まで。
●プリントは写真の裏に紙を貼り、スライドには必ずマウントをつけ、データはメールの添付書類で本文に、氏名、クラブ名、年齢、題名、撮影場所、撮影年月日、住所、電話番号を明記。返却希望の場合は、住所、氏名を記入した返信用封筒に切手を貼り同封。締切：毎月15日。

■ライオンズ・ギャラリー61ﾍﾟｰ
●応募作品：絵画、書、工芸などジャンルは自由。作品のスライド・フィルムか、カラー・プリント（2L判）。氏名、クラブ名、年齢、職種、作品のサイズ、題名を明記し、作品に関するエッセー、自評など（300字程度）、顔写真を添付。

■リーダース・プラザ62～63ﾍﾟｰ
●クラブ会員刊行物：クラブ並びに会員が刊行された出版物を1部送付。
●伝言板：読者間の情報交換に。
●読者から：本誌への意見、感想など。

送り先：〒104-0045中央区築地2-2-1
築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
ファクス：03-3546-2630
Eメール：edit@thelion.jp

「相撲の街に活気を与えるのは、食べ継がれ、磨かれてきた部屋の味覚」)。長い相撲の歴史とちゃんこ鍋は実に車の両輪である。一度は本当の部屋のちゃんこ鍋を味わいたいものだ。

秋田県・仙南雁の里●久米力

すべての会員が平等に学べる

●私は日本のライオンズクラブ草創の頃を少し勉強していたこともあり、1月号からの新企画「奔流50年～回想の日本ライオンズ／海を越えたエクステンション　日本ライオンズ誕生」に大変興味がわいた。今の会員のほとんどは、なかなかライオンズの歴史に触れる機会がないので、雑誌を通じて平等に学べることはとても良い。

岡山操山●岸田元一

しつけは、本人のため

●「人生の師（ライオン君塚一雄）／1月号獅子吼」にあるごとく、厳しいしつけも時に必要であり、受けた方もそのことは一生忘れず、人生の糧としていつまでも反省の心を抱き、本人のためになることでしょう。とても共感出来るお話でした。愛知県・南知多●内田清伊知

伝言板

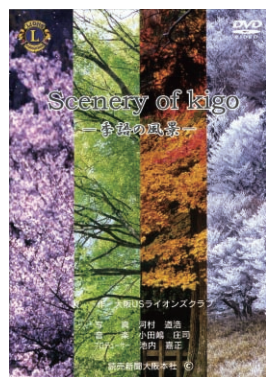
■ラオスへ中古の救急車を

今月号付録のリポート記事に登場したラオスのビエンチャン眼科センターでは、患者輸送用の車輌を必要としています。日本の病院で使用済みとなった救急車（救命装置などの機器はなくて可）の寄贈に協力して頂けるクラブ、メンバーの方は左記へご連絡ください。輸送費など輸出に関連する費用への協力もお願いします。

ラオス側の受け入れに関しては、同国のLCIF事業を監督しているタイのソムサクディ・ロヴィサス元国際理事が対応します。

武藤博昭（埼玉県・大宮見沼ライオンズクラブ／TEL048・683・7641　FAX048・684・8054）

■DVD『季語の風景』

大阪USライオンズクラブ制作のDVD『季語の風景』が完成しました。『読売新聞』夕刊に連載された、四季折々の自然を撮影したシリーズで、美しい日本の風景を一人でも多くの人に鑑賞して頂こうと、作曲家・小田嶋庄司氏の曲に乗せて紹介するDVDを2千枚作成。全国の老人ホームや病院、小学校などに無償配布しています。DVDは非売品で、ご希望の方には配布致しますが、その場合は当クラブの緊急災害対策援助基金にドネーションのご協力をお願い致します。この基金で、ジャワ島での学校建設などを行っています。

大阪USライオンズクラブ（TEL06・6772・8460）

■ジョイセフがランドセル募集

開発途上国での母子保健や健康教育、生活向上等における国際協力を推進している㈶ジョイセフ(www.joicfp.or.jp)が、アフガニスタンの子どもたちに贈るランドセルを募集しています。

アフガンでは多くの子どもたちが青空教室で勉強しています。ランドセルは子どもたちの学ぶ喜びだけでなく、親たちの教育への関心も喚起します。役目を終えて眠っているランドセルをご提供ください。寄贈についての詳細は、本誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp)の「トピックス」内「ボランティアネット」のページをご覧ください。

訂正とお詫び

本誌1月号において以下の誤りがありました。

9ページTHEME／クラブの会員増強活動の成功例は、新潟県・湯沢ライオンズクラブの誤りでした。

19ページLCIFリポートの後ろ3行にある福島民放新聞は福島民報社、福島民有新聞社は福島民友新聞社の誤りでした。

64ページクロスワードのタテのカギ⑫は⑬の誤りでした。

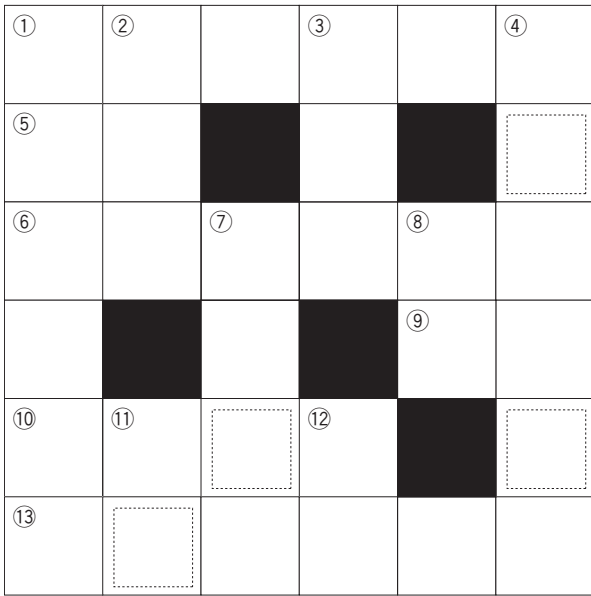
関係者各位にご迷惑をお掛けしたことをお詫びし、訂正致します。

ライオン誌事務所来訪者芳名録

12/21　東京三軒茶屋　藤村　貞夫
1/15　東京恵比寿　荘　英隆
1/15　神奈川県横浜みなとマリン　小柴　登司
1/16　富山　髙井　芳樹
1/17　東京荒川　稲毛田正勝
1/17　千葉県佐倉中央　本村　信英
1/23　千葉　岡野　正義

クロスワードパズル

点線に入る文字をヒントを基に並べ換えてください。正解者の中から10人の方に記念品を差し上げます。ハガキに答えと氏名、クラブ名、住所、電話番号、本誌の感想を書いてご応募ください（あて先は66ﾍﾟｰｼﾞ）。締切は2007年3月20日。

①	②		③		④
⑤		■		■	[点線]
⑥		⑦		⑧	
	■		■	⑨	
⑩	⑪	[点線]	⑫	■	[点線]
⑬	[点線]				

解答 □□□□　ヒント：赤いお顔の右大臣が召したもの

↓タテのカギ

①女の子の成長と幸福を願う日です
②この海峡の冬景色は演歌で有名
③思い切っての意。○○○死にたい
④かつての加賀・能登の2国
⑦タテのカギ④の中心都市
⑧ふりがな
⑪整然としているのが良いとされます
⑫成績や等級などで「甲」の次

←ヨコのカギ

①ノーベル平和賞を受賞したケニア人女性・マータイさんの好きな言葉
⑤昭和初期の造語。モダン・ガールの略
⑥成功するか失敗するか、運を天に任せて実行する
⑨東洋の弦楽器
⑩魚釣りに必要なものの一つ
⑬フランスの三日月形のパン

■前回の答え

リ	ユ	ウ	ヒ	ヨ	ウ
ソ	ウ	カ	ン	■	ン
ウ	セ	ツ	■	ツ	メ
キ	イ	■	シ	カ	イ
ヨ	■	シ	ユ	イ	ロ
ウ	チ	ヨ	ウ	テ	ン

答えは「立春」

EDITOR'S ROOM

築地通信

●ラオスでの視力ファースト事業を取材するため、昨年11月に首都ビエンチャンを訪問。関係者の事情により滞在5時間足らずの慌ただしい取材であった。東南アジア各国を旅した人が「一番良かった国はラオス、とにかく人がいい」と書いていたのを何かで読んだことがある。今回は町を歩くチャンスはなかったが、案内してくれたビソナヴォン医師始め訪問先の人たちは皆穏やかで、笑顔がとても温かだった。ラオスのリポートは今月号付録に掲載。(河村)

●3月号の編集は、冬季休暇明けすぐ始まります。いつもは締め切りまで3週間あるものが、2週間になるので大忙しで進行です。ところで、本誌は刷新して1年。先日、クラブの依頼で過去の記事を探していた時、久々に2年前の雑誌をペラペラとめくりました。比べてみると、やはりカラーページはとても明るく、読みやすいと感じました。私は編集担当になって1年超えたばかり。本誌をなかなか客観的に見る余裕が無かったので、なんだか新鮮でした。(亀田)

読者プレゼント

■卵麺を10人の読者に

「ふるさと探訪」(45ﾍﾟ)に登場した岩手県・江刺岩手ライオンズクラブから、(有)吉田製麺の卵麺(らんめん)が10人の読者にプレゼントされます。300年程前、長崎から江刺岩谷堂を訪れたキリシタンの松屋十蔵は、ここを永住の地としました。十蔵はオランダ人伝授の卵をふんだんに使った麺「蘭麺」を売り出し、これが卵麺の始まりと言われています。厳選された卵と小麦粉と塩、そして水を少量に控えて練り上げた卵麺は、伸びにくくシャキシャキした歯触りが特徴です。

■「大回顧展モネ」チケットを10人に

4月7日～7月2日、東京・六本木の国立新美術館で開催される「大回顧展モネ～印象派の巨匠、その遺産」のチケット(2枚1組)が10人の読者にプレゼントされます。国立新美術館の開館記念となるこの展覧会では、オルセーやメトロポリタン、ボストンを始め世界中の美術館と個人的コレクターが所有する100点近いモネの作品が一堂に会します。モネの魅力をかつてない規模で多角的に堪能頂けます。

モネ「日傘の女性」1886年 オルセー美術館 Photo:RMN

『ライオン』誌日本語版バック・ナンバー

2007年2月号

THEME：ライオンズクエスト
PICK UP：YE
ROAR：331複合地区

2007年1月号

THEME：会員増強
PICK UP：PRの重要性
ROAR：330複合地区

プレゼント応募要項

はがきに郵便番号、住所、氏名、電話番号、クラブ名と「卵麺」「モネ展チケット」とご希望の品を明記し、下記のあて先へ。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は3月末日。応募多数の場合は抽選となります。当選のお知らせはプレゼントの発送をもって代えさせて頂きます。

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌事務所
ウェブサイトからの応募
www.thelion-mag.jp/modules/form1

次号予告

THEME
LCIFスタディ・ツアー

海外のLCIF事業を視察するLCIFスタディ・ツアー。第4回となる今回は、2月9～13日の日程でフィリピンを訪問。同国政府からも大きな期待が寄せられている334・E地区の継続事業フィリピン医療奉仕に同行した他、小学校での児童の視力スクリーニングや青少年の訓練所、スラム街の図書館などを見学した。

PICK UP
いのちの尊さ

不慮の事故で亡くなった娘の遺志を生かし、臓器移植を承諾した父。今、父は、いのちが受け継がれているのを感じ、いのちの尊さを伝える旅を続けている。

ROAR・ローア
――まるごと333複合地区

「トピックス」は新潟県・三条中央、茨城県・水海道、千葉県・松戸南、千葉県・富津、群馬県・高崎三山の各クラブ。「ふるさと探訪」は茨城県北茨城市を訪ねる。太平洋沿岸を行き交う船の「風待ち港」として江戸の頃から栄えてきた平潟港。現在は、冬の高級魚アンコウの水揚げ量県内一を誇る漁港として知られる。暖流と寒流が交錯する茨城県沖の大陸棚はアンコウにとって絶好の生息場所。漁の最盛期ともなると、アンコウ鍋や、その原型と言われる「どぶ汁」を目当てに訪れる観光客でにぎわう。

Official publication of Lions Clubs International.

Published by authority of the Board of Directors in 21 languages – English, Spanish, Japanese, French, Swedish, Italian, German, Finnish, Korean, Portuguese, Dutch, Danish, Chinese, Norwegian, Icelandic, Turkish, Greek, Hindi, Polish, Indnesian and Thai.

EXECUTIVE OFFICERS
President, JIMMY M. ROSS, PO Box 368, Quitaque, Texas, 79255 USA; Immediate Past President, DR. ASHOK MEHTA, 95 K Bhulabhai Road, Khatau Mansion, Oomer Park, Mumbai 400 036, India; First Vice President, MAHENDRA AMARASURIYA, No. 70, Fife Road, Colombo 5, Republic of Sri Lanka; Second Vice President, ALBERT F. BRANDEL, 14 Herrels Circle, Melville, New York 11747-4247 USA.

DIRECTORS
JAN AKE AKERLUND, Hollviken, Sweden; ROY H. BARNETTE, Columbia, South Carolina, USA; PEDRO A. BOTELLO ORTIZ, Monterrey, Mexico; PEI-JEN CHEN, Taipei, Taiwan; SUNG GYUN CHOI, Seoul, Republic of Korea; FRANCISCO FABRICIO DE OLIVEIRA NETO, Catole do Rocha, Brazil; ROBERT J. EICHHORN, Metairie, Louisiana, USA; CLAUS A. FABER, Oberndorf-Lindenhof, Germany; H. DAVID FIANDT, Ft. Wayne, Indiana, USA; RYU FUSHIMI, Yokohama Kanagawa, Japan; JOSEPH F. GAFFIGAN, Silver Spring, Maryland, USA; TERRY GRAHAM, Newcastle, Ontario, Canada; LUIS GUERERRO CARRASCO, Guayaquil Guayas, Ecuador; WILLIAM C. HANSEN, Rochester Hills, Michigan, USA; WAYNE HEIMAN, Manawa, Wisconsin, USA; MIKLOS HORVATH, Budapest, Hungary; SHEIKH KABIR HOSSAIN, Dhaka, Republic of Bangladesh; HOWARD A. JENKINS, Columbus, Mississippi, USA; LELAND R. KOLKMEYER, Wellington, Missouri, USA; ROBERT W. MOORE, Stockholm, New Jersey, USA; GEORGIOS J. "KOKOS" NICOLAIDES, Nicosia, Cyprus; K.G. RAMAKRISHNAMURTHY, Coimbatore, India; DR. BEVERLY A. ROBERTS, Hephzibah, Georgia, USA; RUSSELL SARVER, Durand, Illinois, USA; KENNETH C. SCHWOLS, Loveland, Colorado, USA; MANOJ SHAH, Nairobi, Kenya; STEVEN DALE SHERER, New Philadelphia, Ohio, USA; L. DOUG SIME, Bridgewater, Massachusetts, USA; DJOKO SETIONO SOEROSO, Jakarta, Indonesia; PHILIPPE SOUSTELLE, Ales Gard, France; DAVID E. "DAVE" STOUFER, Washington, Iowa, USA; TORU TANINO, Shimonoseki, Japan; JITSUHIRO YAMADA, Minokamo Gifu, Japan.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオン誌日本語版委員会
国際理事　伏見龍・山田實紘・谷野徹
委員長　砂田繁雄(334)
編集長　菊池清二(332)
委員　中島洋吉(330)・古谷野環(331)
笹本瞭(333)・松田毅(335)
尾﨑明雄(336)・井村一男(337)

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website:www.thelion-mag.jp

編集室

子どもの仕付けは親の責任

ライオン誌
日本語版委員
◉
井村一男

昨今、子どもへの仕付けがきちんとされていないとよく耳にする。子どもの行動に問題があると、学校教育や世間が悪いかのように言っている親が多い。これは責任を他人に転嫁している場合が多いのではなかろうか。

我々の世代が幼い頃は、怖いものというと「地震・雷・火事・親父」と言われたものである。子どもの頃は理屈を親の教養で言い聞かせても「はい、はい」と言うだけで実はよく分かってはいない。それより軽い体罰で仕付けることだ。その理由は本人が大人になってから「あの時のことはこれだったのか」と思い起こすことが出来るからである。

戦後復興の過程において、物質文明が先行し、仕付け、教育、礼儀などの精神文明は置き去りになってしまった。男女平等は正しいことだが父権が失墜している。力のある人が家庭内にいるという存在感が必要なのだ。

犬、猫、牛、馬などの家畜類でも、幼い時期から仕付けていないと後々が難しい。では人間として最初に何を仕付けるべきか。私は礼儀作法から始めるのが最良だと思っている。日本では古くから儒教の教えこそ人生哲学に通じるものがあると思われてきた。これは、どこの国の社会においても通用することだ。アインシュタインは来日した際、日本人の礼儀や仕付けの良さを称賛しており、キャサリン・サムソン著の『東京で暮す』でも同じ賛美である。

最近の書『国家の品格』の中では、著者藤原雅彦氏は仕付けるということは毎日同じことを口うるさく言うことだと書いている。また、高校サッカーの名門国見高校サッカー部総監督で、私と若干お付き合いのある小嶺忠敏氏の話や、シンクロナイズドスイミング元日本代表コーチ井村雅代氏の著書『愛があるなら叱りなさい』の中でも同じことが語られている。更に2人はスポーツを通して礼儀、規則、根性を身につけよと言っている。

いつの時代も子どもの仕付けは必要なものであり、また親の責任であるということも忘れてはならない。ライオンズクエスト・プログラムが脚光を浴びているのも、世の乱れに対しての一方策なのではないだろうか。